

分担研究報告書

病院フォーミュラリーの策定に係る標準的手法開発および地域医療への影響の調査研究

地域フォーミュラリーに関する薬局薬剤師の意識調査に関する研究

研究分担者 小池 博文 横浜市立大学附属病院薬剤部
研究協力者 川邊 桂 横浜市立大学附属病院薬剤部

研究要旨

フォーミュラリーの策定に係る標準的手法開発にあたり、その基礎となる地域フォーミュラリーに関する薬局薬剤師の意識調査を行った。対象地域は、すでに地域フォーミュラリーを実施している山形県酒田地区、地域基幹病院と薬剤師会で準備が進んでいる大阪府八尾市、具体的な取り組みが始まっていない横浜市金沢区の3地域とした。意識調査の回答を解析してみると、フォーミュラリーの定義・内容に関する認知度においては、金沢区では半数程度にとどまった。基幹病院でフォーミュラリーが進んでいても、地域薬剤師会との連携が取れていなければ理解が進んでいないことが確認できた。フォーミュラリーの普及促進のために必要なことは、いずれの地区においても「処方医のフォーミュラリーに対する理解」との回答が最も多かった。一方、八尾市と金沢区ではフォーミュラリーの必要性を感じていないとした理由として「処方医の理解が進んでいると思わない」が最も多かった。このことから、地域医師会や歯科医師会、薬剤師会が連携して相互理解を深めていく必要があることが極めて重要であることが示唆される。

フォーミュラリーの作成が望まれる薬効群では、高血圧治療薬、糖尿病治療薬など生活習慣病用薬の回答が多かった。今後、我が国において標準的フォーミュラリーを策定する際は、本研究の結果を参考とすることが望まれる。

A. 研究目的

我が国における医薬品フォーミュラリーは、当該医療機関(グループ病院含む)で運用される「病院(院内)フォーミュラリー」について取組事例の報告が複数あるが、地域医療への影響度は小さくほとんど浸透していない。地域フォーミュラリーの推進には、当該エリアの薬局薬剤師が中心的役割を担うことが求められるが、

これまでに薬局薬剤師を対象としたフォーミュラリーに関する意識調査の報告はない。

本調査では、基幹病院が病院フォーミュラリーを運用している地区における薬局薬剤師を対象として、フォーミュラリーの認知度や普及促進のための意識について調査するとともに、フォーミュラリーが地域医療へ与える影響や運用上における課題を把握し、今度の普及拡大に向けた方策の一助とすることを目的とした。

B. 研究方法

令和 2 年 8 月よりアンケート調査項目の検討を開始し、その後、研究班会議および研究責任者との協議の上、11 月にアンケート項目を確定させた。アンケート調査用紙の印刷と並行して、ウェブでの回答も可能とするようシステムを構築した。ウェブ回答は、薬局に送付した自記式調査票に印字した QR コード(パスワード付)より専用の入力フォームにて行うこととした。

11 月までに対象地区における地域薬剤師会(市域薬剤師会)に調査概要を説明した上で、12 月にアンケート調査用紙を郵送で配布した。回収は返信用封筒による直接郵送のほか、調査票に印字したよりアクセスしたウェブ上での回答も可能とした。(紙の調査票は回答後に調査対象者が廃棄)

調査時期は、12 月 9 日(水)から 21 日(月)までとしたが、回答の期限を延長し、最終的に令和 3 年 1 月 25 日(月)で締め切った。

〔倫理面への配慮〕

本研究は国内の保険薬局におけるフォーミュラリーの実態を把握するための調査を主体とした研究であり、人および人に由来するサンプルを使用する臨床研究・臨床試験とは異なる。さらに、患者の個人情報に触れる内容も含まれていない。従って、府省庁が規定する倫理指針等に抵触する研究ではないと考えられる。研究分担者は、利益相反マネジメントの対象に該当しない。

〔調査対象エリアの選定方法〕

本調査では、地域フォーミュラリーの実施状況を(1)実施済、(2)実施準備中、(3)実施未定の国内 3 地区における保険薬局を調査対象とした。当該エリアにおける保険薬局については、

所轄厚生局作成の保険医療機関・保険薬局の施設基準の届出受理状況および保険外併用療養医療機関一覧を参考とした。

(1) 山形県酒田地区

地方独立行政法人山形県酒田市病院機構日本海総合病院を基幹病院として、酒田地区(酒田市、遊佐町、庄内町)において国内最初の地域フォーミュラリーを実践しているエリアである。

(2) 大阪府八尾市

八尾市立病院を基幹病院として、地域の八尾市薬剤師会と協働して地域フォーミュラリーの準備を進めているエリアである。ただし、調査開始時点では地域医師会を含めた地域フォーミュラリーは公式に運用されていないエリアである。

(3) 横浜市金沢区

横浜市立大学附属病院では、20 以上の病院フォーミュラリーを運用しているが、地域薬剤会および医師会とは連携が出来ておらず、地域フォーミュラリーの実施は未定となっているエリアである。

C. 研究結果

1. 対象地域と回収率

本調査における回答率は郵送およびウェブ回答の全合計で244件中143件であり、全回

答率は58.6%であった。各地区の回収状況は以下の通りである。

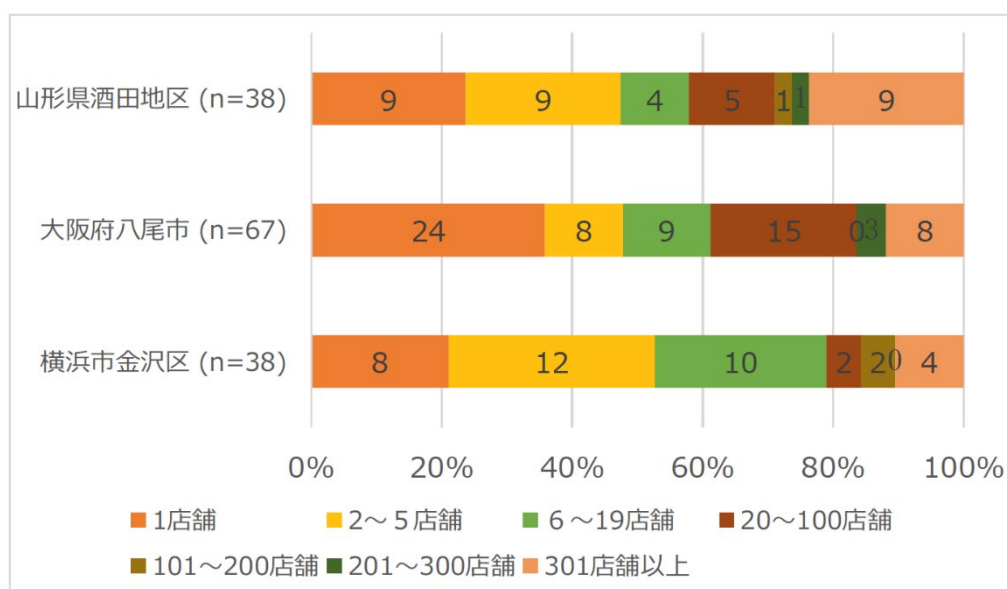
	山形県酒田地区	大阪府八尾市	横浜市金沢区
調査対象	61	97	86
郵送回答	24	31	20
ウェブ回答	14	36	18
回答率	62.3%	69.1%	44.2%
全回答率 58.6%(143/244)			

2. 薬局の概要調査結果

① 同一会社の店舗数

山形県酒田地区は301店舗以上を有する大型チェーン薬局が占める割合が高い傾向が見られた。(9件/全38件)

一方、大阪府八尾市では1店舗の個人薬局の割合が高いが、20～100店舗を有する大型薬局の件数も多い傾向がみられた。

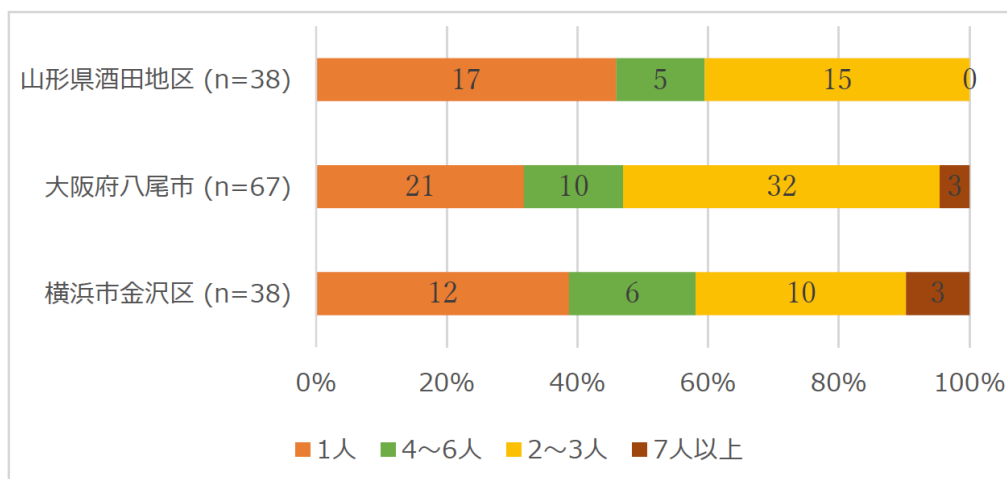


図表: 同一会社の店舗数(単一回答)

② 薬局の勤務者数(薬剤師、一般従事者)

薬剤師の薬剤師常勤者数の平均値を比較すると、八尾市および金沢区は平均 2.7 人、酒田地区は 2.1 人と少ない傾向であるが、中央値は

いずれも 2.0 人と同じであった。薬剤師非常勤者では平均値で金沢区が 2.8 名と最も多く、次いで八尾市 1.8 人、酒田地区 0.9 人であった。



図表: 回答薬局における常勤薬剤師の人数

一般従事者では、常勤者数は酒田地区 2.5 人、八尾市 2.1 人、金沢区 1.8 人の順に多くなっているが、非常勤者数では逆の順位となっている。

(単位: 人)

	薬剤師常勤			薬剤師非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
山形県酒田地区 (n=38)	2.1	1.4	2.0	0.9	1.2	1.0
大阪府八尾市 (n=67)	2.7	2.0	2.0	1.8	1.5	2.0
横浜市金沢区 (n=38)	2.7	1.8	2.0	2.8	2.5	2.0

図表: 回答薬局における薬剤師(常勤・非常勤)の人数

(単位: 人)

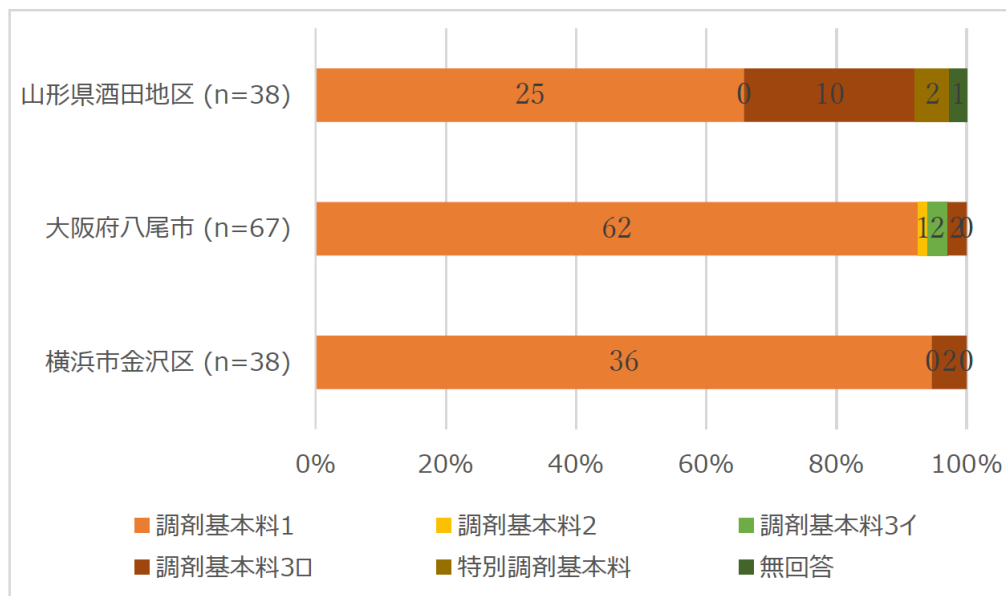
	一般従事者常勤			一般従事者非常勤		
	平均値	標準偏差	中央値	平均値	標準偏差	中央値
山形県酒田地区 (n=38)	2.5	1.5	2.0	1.0	2.0	0.0
大阪府八尾市 (n=67)	2.1	2.3	2.0	1.8	2.1	1.0
横浜市金沢区 (n=38)	1.8	1.6	1.0	2.4	2.3	2.0

図表: 回答薬局における一般従事者(常勤・非常勤)の人数

③ 調剤基本料の種類

酒田地区においては、調剤基本料3口および特別調剤基本料を算定する薬局が合わせて12

件あり、他地区よりも大手薬局の占める割合が高い傾向がみられる。

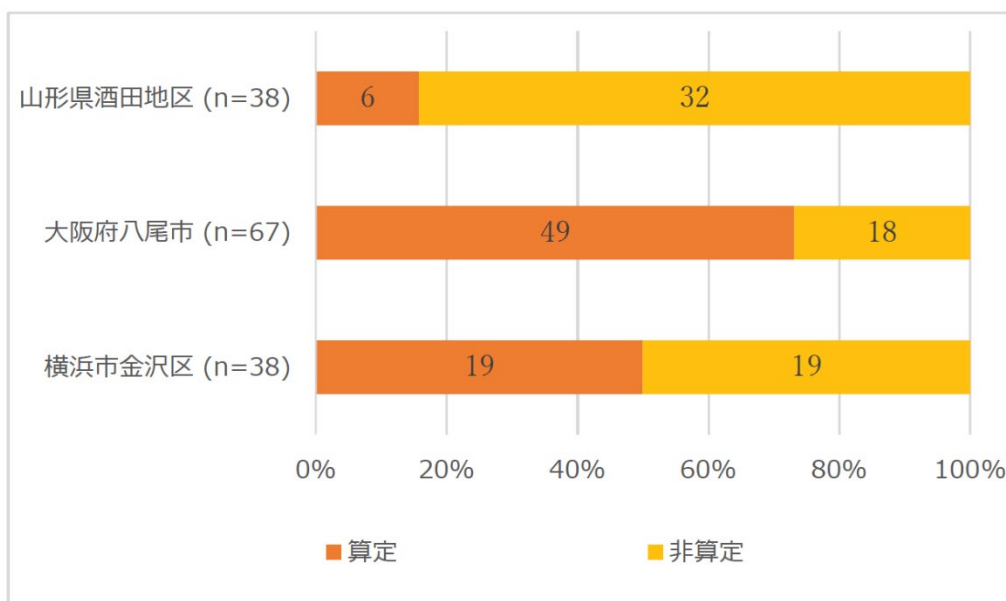


- 調剤基本料3ロ：同一グループの保険薬局の処方箋受付回数の合計が月3.5万回超、かつ集中度95%超（同一グループ 月3.5万回超～4万回以下）
- 特別調剤基本料：保険医療機関と特別な関係（敷地内）かつ集中度70%超、もしくは調剤基本料に係る届出を行っていない

④ 地域支援体制加算の算定状況

八尾市では本加算の算定割合は73.1% (49件 / 全67件)と高い割合であるが、酒田地区では

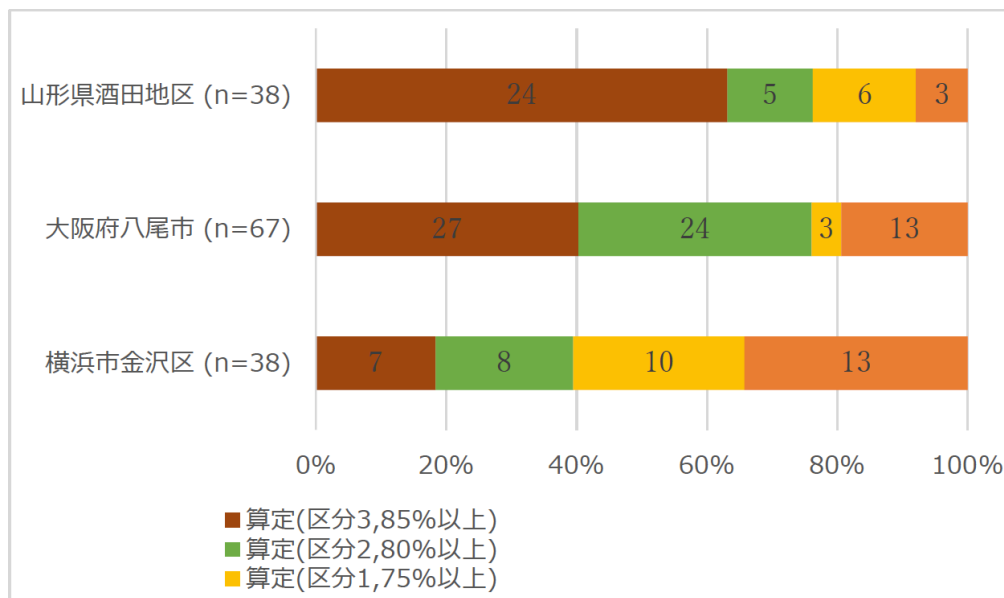
15.8%(6件/全38件)となっている。



⑤ 後発医薬品調剤体制加算の算定状況

酒田地区では区分 3 が 63.2%(24 件/全 38 件)を占めるなど、全体の 92.1%が本加算を算定している。一方、八尾市、金沢区の順で算定

状況は低い傾向がみられ、金沢区においては 34.2%(13 件/全 38 件)が未算定となっている。



後発医薬品調剤体制加算(いずれもカットオフ値 50%以上)

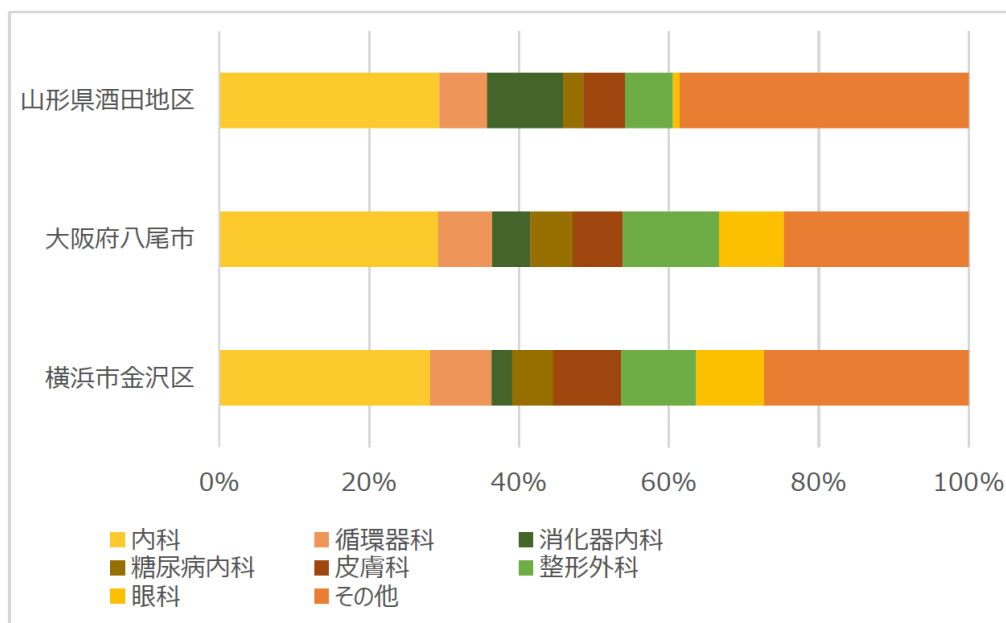
区分 3 : 後発品置換え率 85%以上

区分 2 : 同 80%以上

区分 1 : 同 75%以上

⑥ 処方せんの応需状況(診療科上位3位まで)

いずれの地区においても内科系の診療科が割合が低い傾向がみられた。
半数程度を占めている。酒田地区では、眼科の



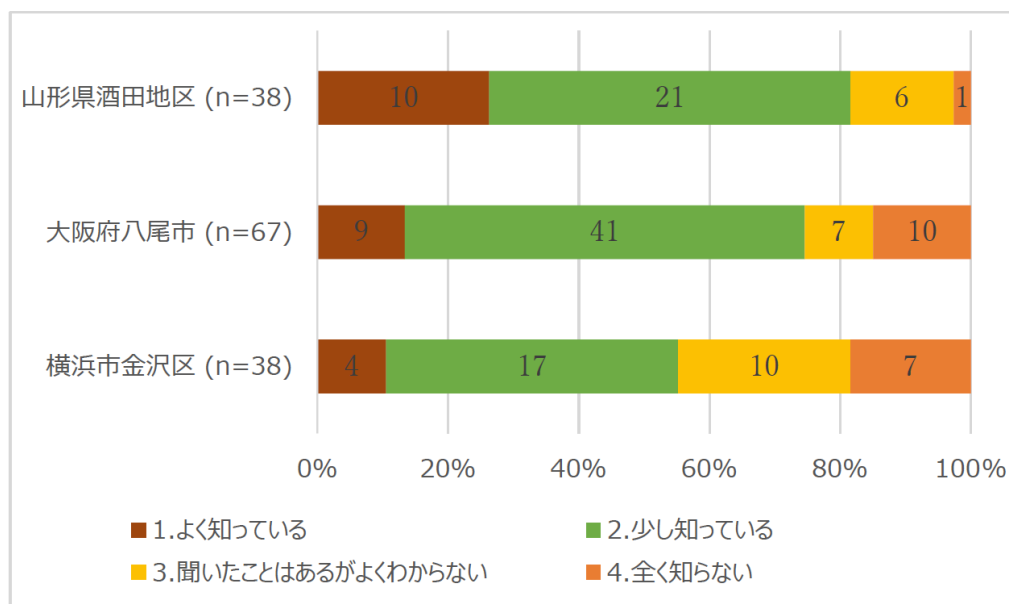
図表:処方せんの診療科別応需状況(上位3位までを回答)

3. フォーマリナー全般に関する意識調査結果

① フォーマリナーの定義、内容についての認知度

すでに地域フォーマリナーが開始されている酒田地区では、「1.よく知っている」、「2.少し知っている」を合わせて8割以上の高い認知度であった。地域フォーマリナーの作成に

取りかかっている八尾市 74.6%と高い傾向が見られた。一方、金沢区においては、1と2の合計が21件にとどまり、認知度は55.3%にとどまっている。



図表：フォーマリナーの認知度(単一回答)

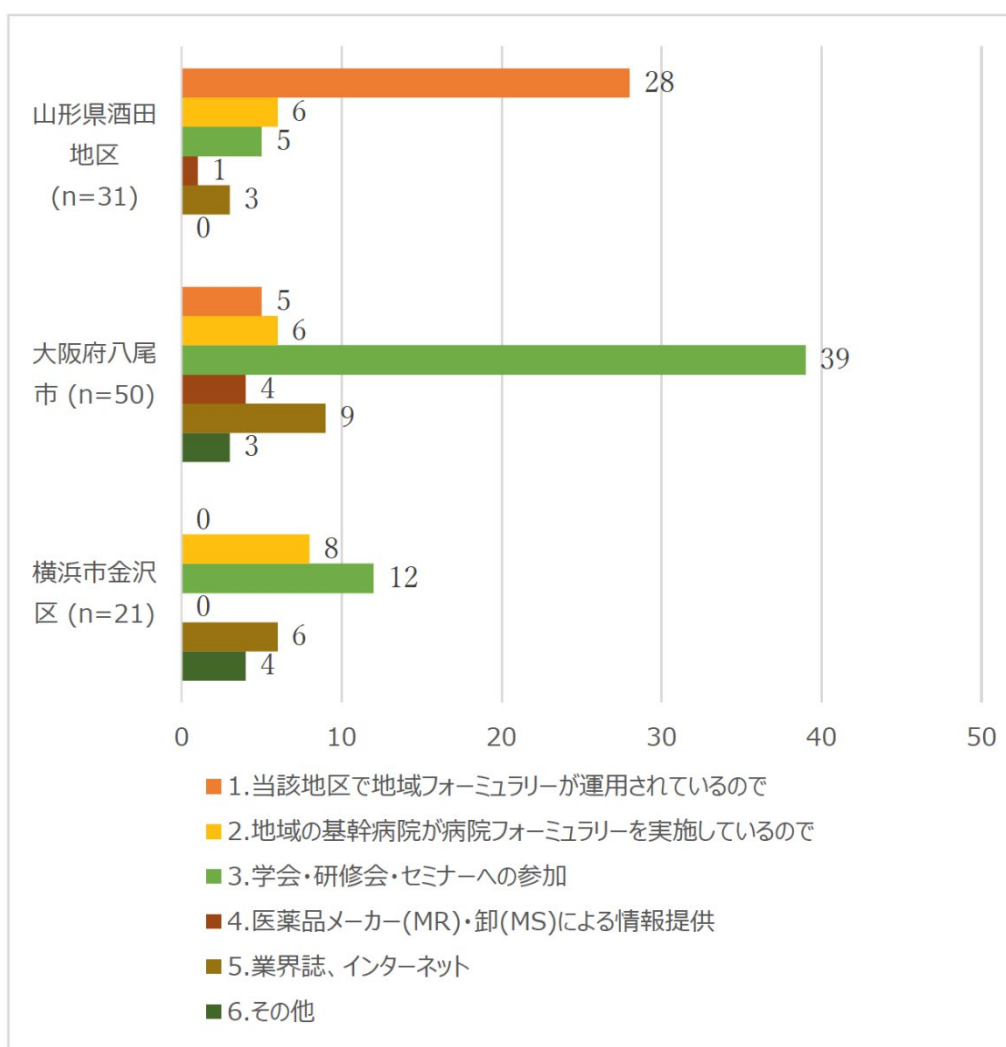
② フォーマリラー認知のための手段

⑦で「1.よく知っている」、「2.少し知っている」と回答した場合、どのようにしてフォーマリラーの定義や内容を知ったかとの問に対し、酒田地区ではすでに地域フォーマリラーが運用されていることから「1.当該地区で地域フォーマリラーが運用されているので」の回答割合が高かった。

八尾市では「3.学会・研修会・セミナーへの参加」と回答した割合が78%(39件/全50件)

と高く、フォーマリラーの普及促進のためには地域でのセミナー開催が望まれることを示唆している。

金沢区では①でのフォーマリラー認知度は高くないが、認知をしている回答者の中では「2.地域の基幹病院が病院フォーマリラーを実施しているので」の選択割合38%(8件/全21件)と、他の地区と比較して高い傾向も見られた。

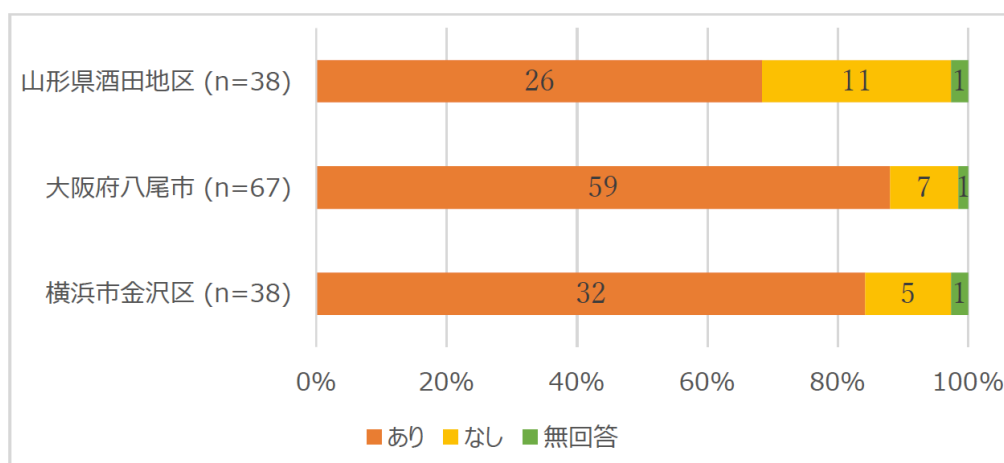


図表: フォーマリラーの認知のための手段(複数回答)

③ 薬局で患者から薬の値段について相談されたことの有無

いずれの地区も高い割合で相談があったと回答をしているが、酒田地区においては他の地区と比較してやや低い傾向が見られた。この要因としては、処方せん単価の違い(高額薬剤の処方頻度)や所得、県民性などのほか、C.2.薬局概要調査の⑤後発医薬品調剤体制加算で示したように、後発品の利用率が高く、すでに置き

換わっている割合が高いことも影響している可能性がある。実際に、令和2年度の山形県の保険薬局における後発医薬品使用状況は82.7%(全国6位)と高く、神奈川県(37位、77.2%)、大阪府(42位、76.7%)となっている。(最近の調剤医療費(電算処理分)の動向, 厚生労働省, 令和2年3月)

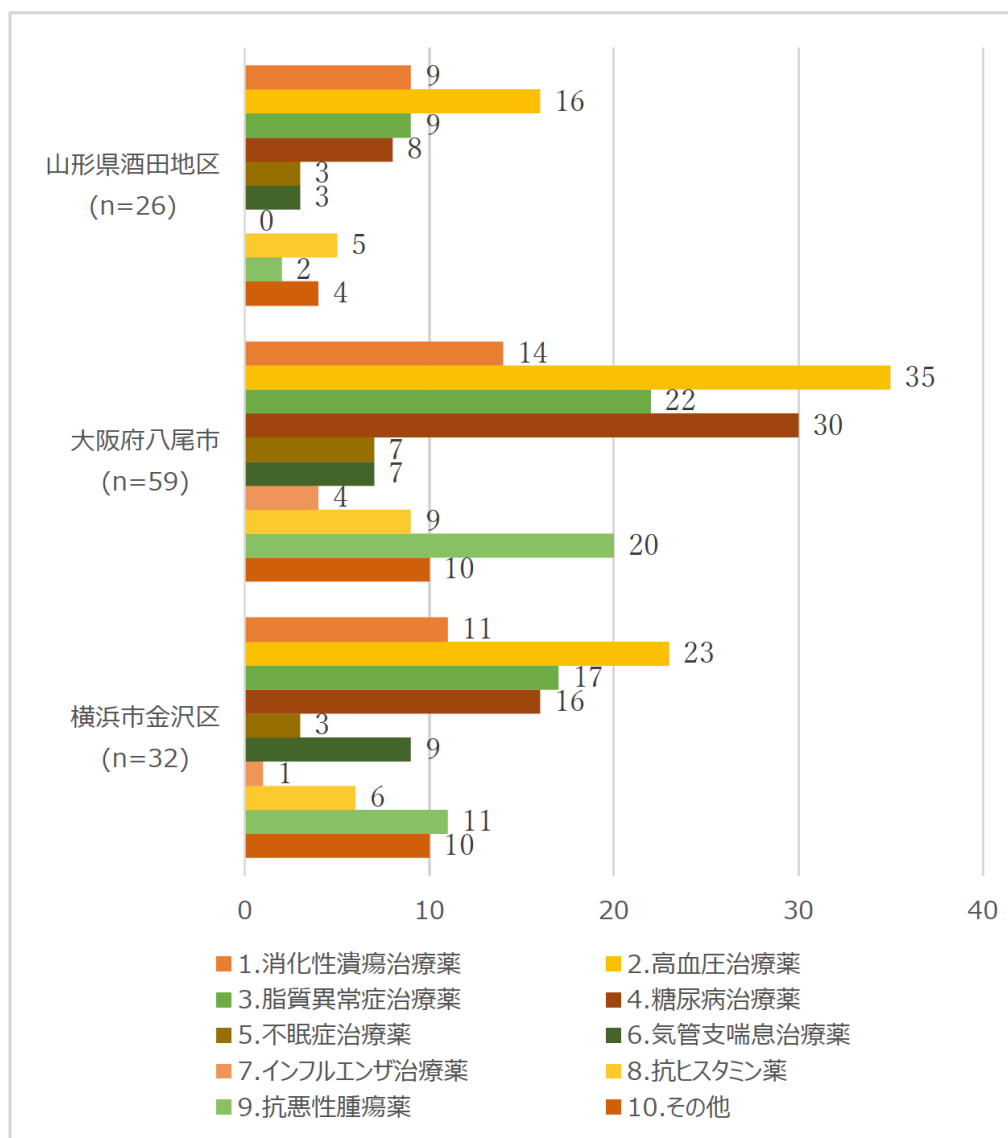


図表: 薬局で患者から薬の値段について相談されたことの有無(単一回答)

④ 患者から相談があった薬効群

③で患者相談があったと回答した場合の薬効群についての回答では、「2.高血圧治療薬」や「3.脂質異常症治療薬」、「4.糖尿病治療薬」などの生活習慣病用薬の割合が高かったが、八

尾市や金沢区では「9.抗悪性腫瘍薬」もそれぞれ 33.9%、34.4%との薬局で相談があったとしている。



図表：薬局で患者が薬の値段について相談があった薬効群(複数回答)

その他薬効群の主な回答については次の通りである。

山形県酒田地区

・免疫疾患、抗リウマチ薬、抗血小板薬

大阪府八尾市

・抗凝固薬、抗菌薬、婦人科用薬、抗アレ

ルギー薬、心疾患治療薬、緑内障治療薬、抗精神病薬、骨粗鬆症治療薬

横浜市金沢区

・抗凝固薬、ドライアイ治療薬(点眼)、輸液、抗アレルギー薬、抗ウイルス薬、鎮痛剤、抗精神病薬

4. 地域フォーミュラリーの運用状況に関する調査結果

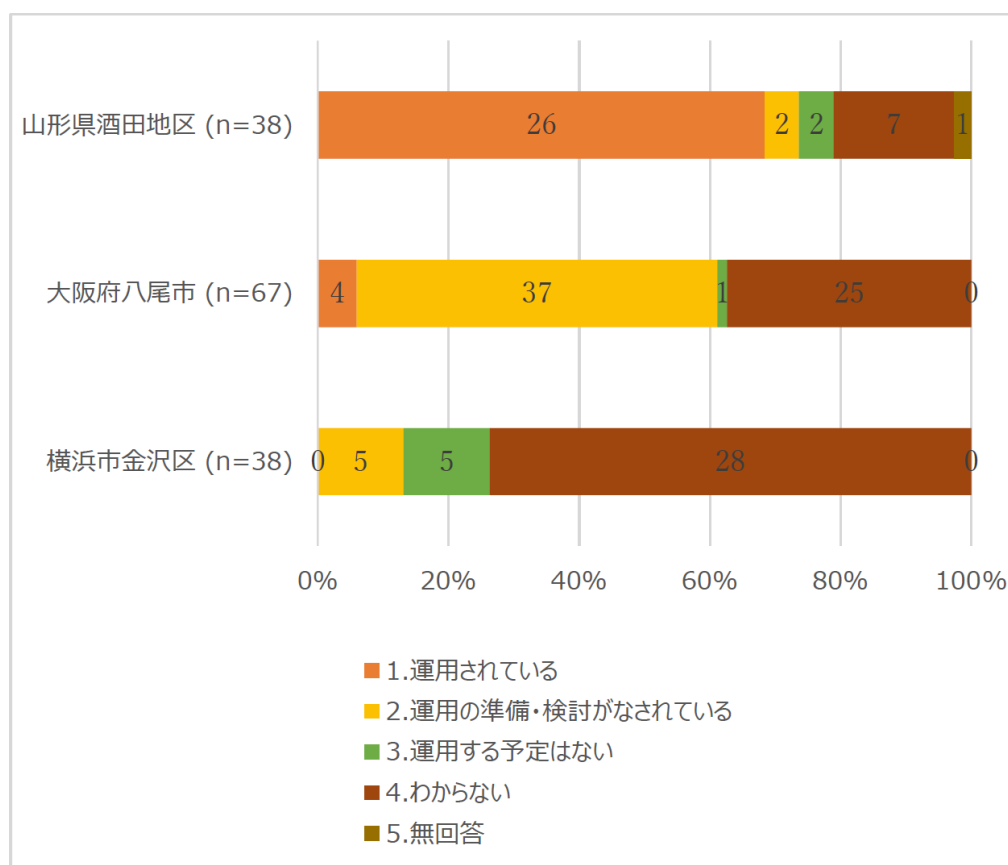
① 所在地での地域フォーミュラリー運用状況

地域フォーミュラリーが運用されている酒田地区において、「1.運用されている」と正確に回答したのは68.4%(26件/全38件)にとどまっており、約3分の1にあたる薬局で十分に理解されていないことが示唆される。

八尾市では準備段階から地域フォーミュラリーの運用が始まる時期であったが、「1.運用されている」と「2.運用の準備・検討がなされ

ている」の合計は41件(61.1%)にまで浸透してきている。

金沢区では多くの施設で「4.わからない」との回答だったが、「3.運用する予定はない」との回答も13.2%(5件/全38件)あり、地域フォーミュラリーの理解が進んでいないことが示唆された。

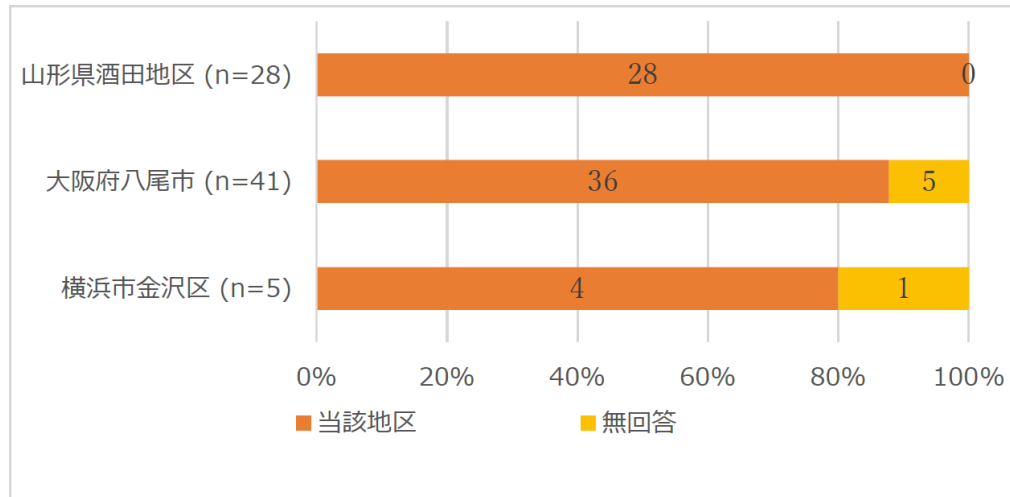


図表:所在地での地域フォーミュラリー運用状況(単一回答)

② 地域フォーミュラリー運用地域

⑧で「1.運用されている」または「2.運用の準備・検討がなされている」と回答した場合の、

地域フォーミュラリー運用地域について、当該地区以外の記載は見られなかった。



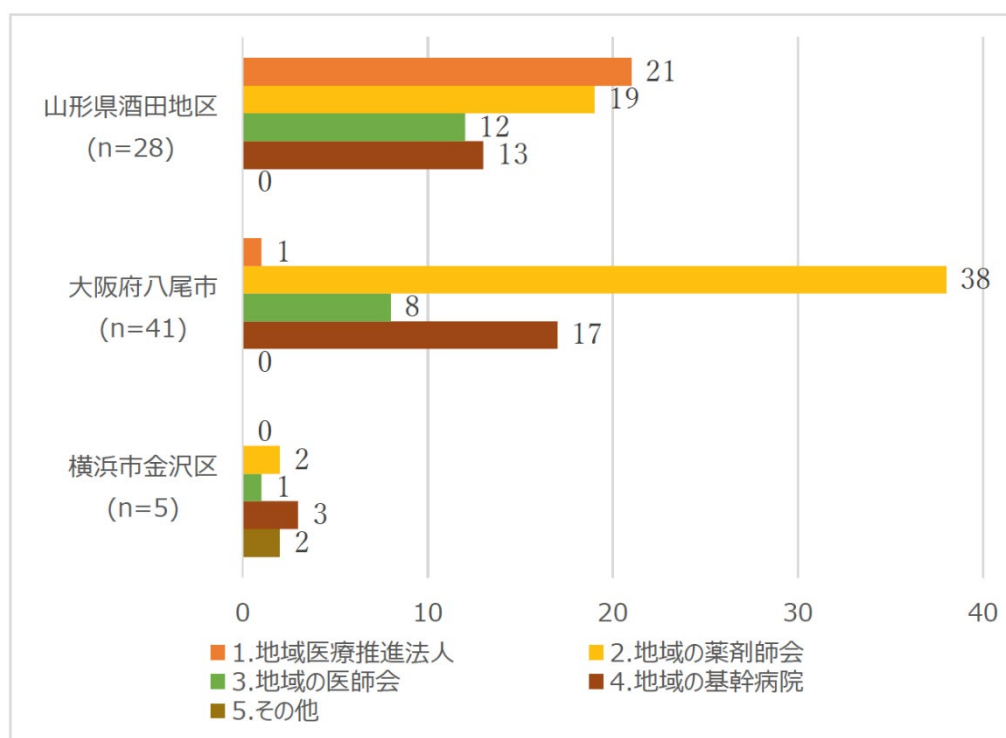
図表：所在地での地域フォーミュラリー運用地域(単一回答)

③ 地域フォーミュラリーの作成・運用に関わっている団体

①で「1.運用されている」または「2.運用の準備・検討がなされている」と回答した場合で、地域フォーミュラリーの作成・運用に関わっている団体について、酒田地区では75%(21件/全28件)が「1.地域医療連携推進法人」と回答しており認

知度は高い。

八尾市においては、92.7%(38件/全41件)が「2.地域の薬剤師会」と回答しており、薬剤師会の取組が十分浸透していると言える。



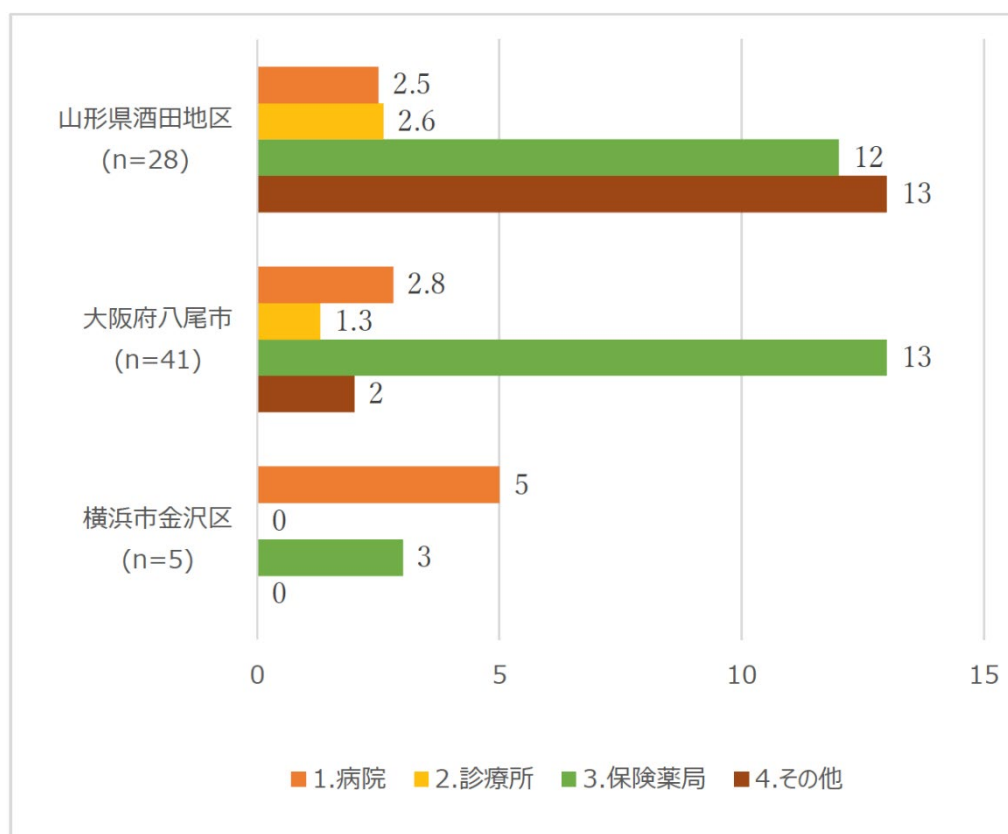
図表：地域フォーミュラリー運用に関わっている団体(複数回答)

④ 地域フォーミュラリーの作成・運用に関わっている参加施設数(回答者平均値)

①で「1.運用されている」または「2.運用の準備・検討がなされている」と回答した場合で、地域フォーミュラリーの作成・運用に関わっている施設数の平均値を比較すると、酒田地区、八尾市ではいずれも保険薬局が多い

傾向が見られた。

なお、酒田地区で「4.その他」が多いのは、同一地域医療連携推進法人の施設を指しているものと推測される。

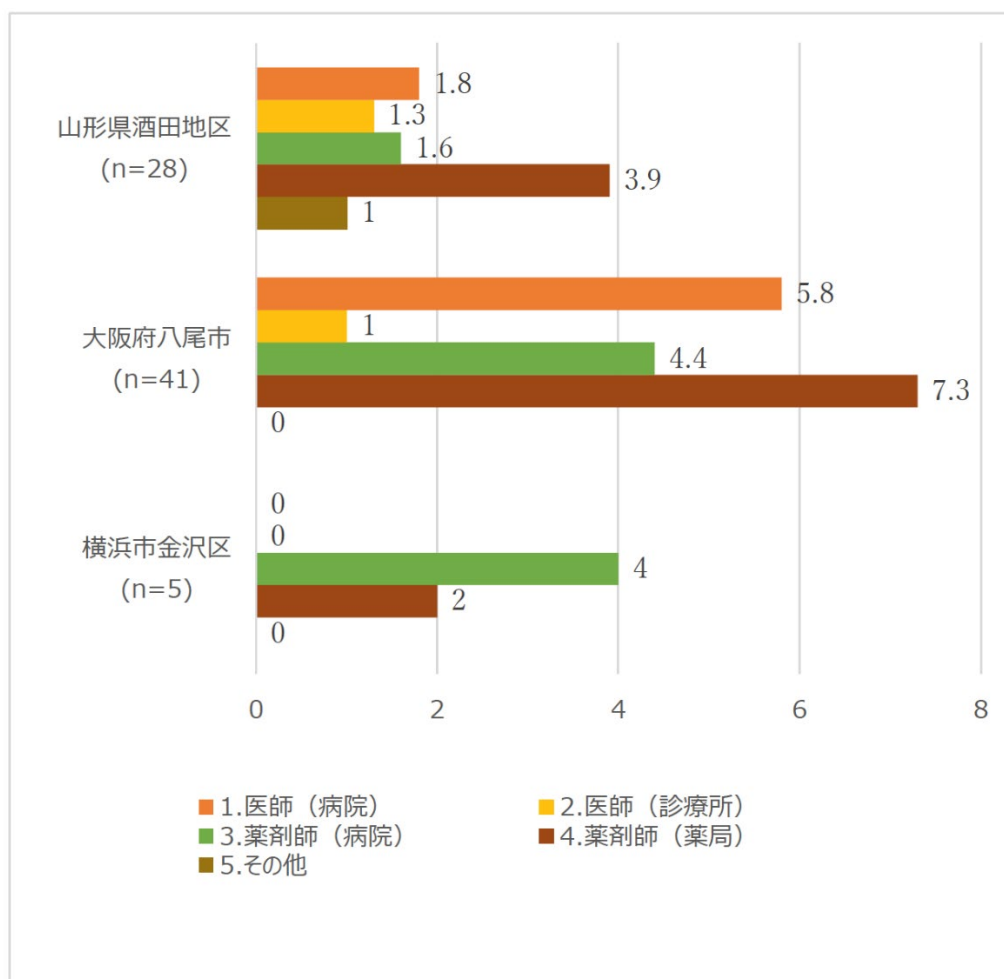


図表：地域フォーミュラリー運用に関わっている参加施設数(複数回答)

⑤ 地域フォーミュラリーの作成・運用に関わっている構成員数(回答者平均値)

①で「1.運用されている」または「2.運用の準備・検討がなされている」と回答した場合で、地域フォーミュラリーの作成・運用に関わっている構成員数の平均値を比較すると、酒田地区、

八尾市ではいずれも「4.薬剤師(薬局)」が最も多かった。八尾市では、「1.医師(病院)」の人数も多く、基幹病院の医師が積極的に関与していることが示唆された。



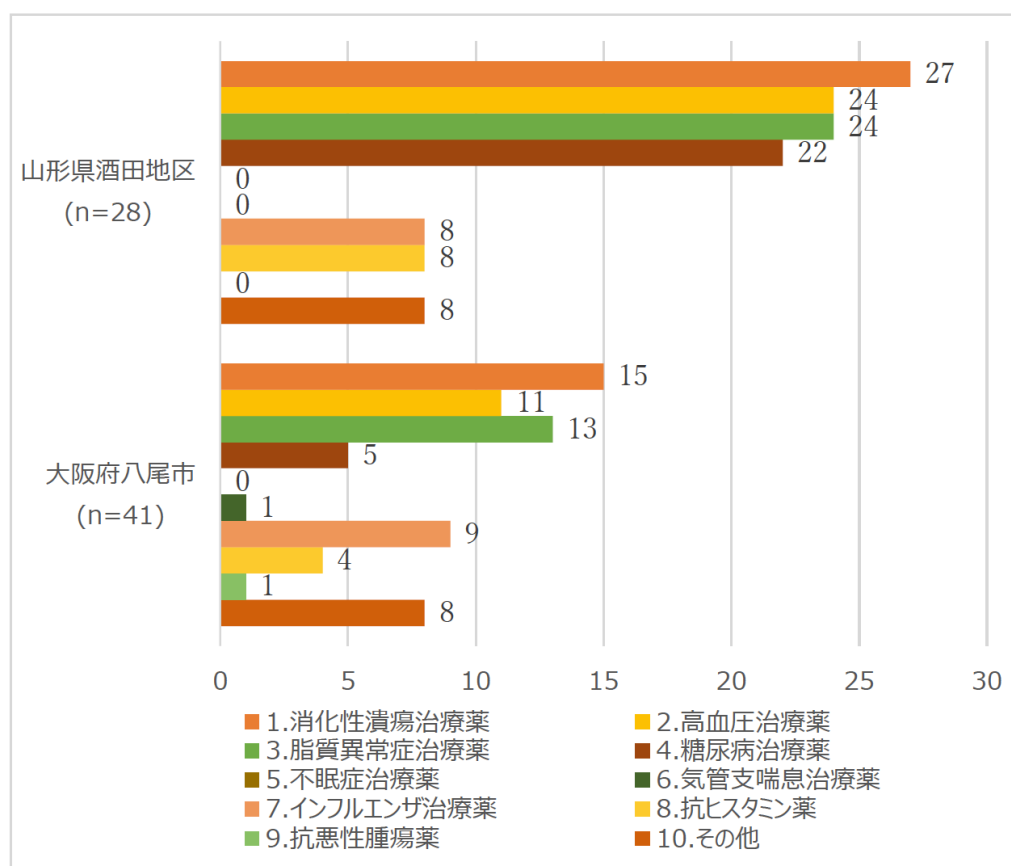
図表：地域フォーミュラリー運用に関わっている構成員数(複数回答)

⑥ 地域フォーミュラリーを運用している薬効群

①で「1.運用されている」または「2.運用の準備・検討がなされている」と回答した場合、地域フォーミュラリーを運用している薬効群は、「1.消化性潰瘍治療薬」、「2.高血圧治療

薬」、「3.脂質異常症治療薬」、「4.糖尿病治療薬」などの生活習慣病用薬が多かった。

なお、金沢区では地域フォーミュラリーが始まっていないため、データ掲載を割愛した。



図表：地域フォーミュラリー運用している薬効群(複数回答)

その他の主な回答は次の通りである

酒田地区

- ・バイオシミラー製剤
- ・骨粗鬆症治療薬(ビスホスホネート)

八尾市

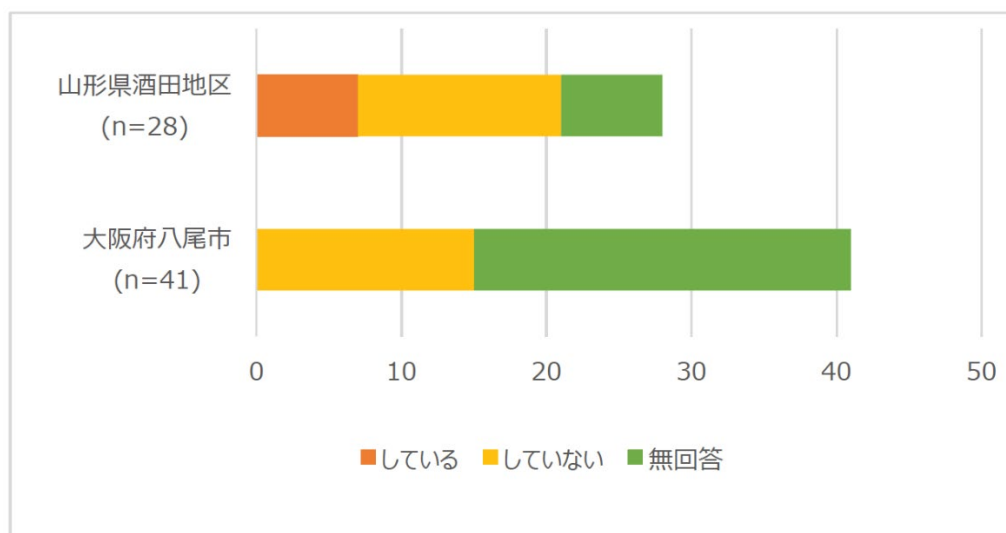
- ・带状疱疹(ヘルペス)治療薬
- ・神経障害性疼痛治療薬

⑦ 地域フォーミュラリーの定期的な見直しの有無

①で「1.運用されている」または「2.運用の準備・検討がなされている」と回答した場合、地域フォーミュラリーを定期的に見直しているかと問いに対して、すでに平成 30 年 11 月の運用開始から調査時期で 3 年を迎えている

酒田地区のみ「1.している」の回答があったが、見直し間隔の記載はなかった。

なお、金沢区では地域フォーミュラリーが始まっていないため、データ掲載を割愛した。



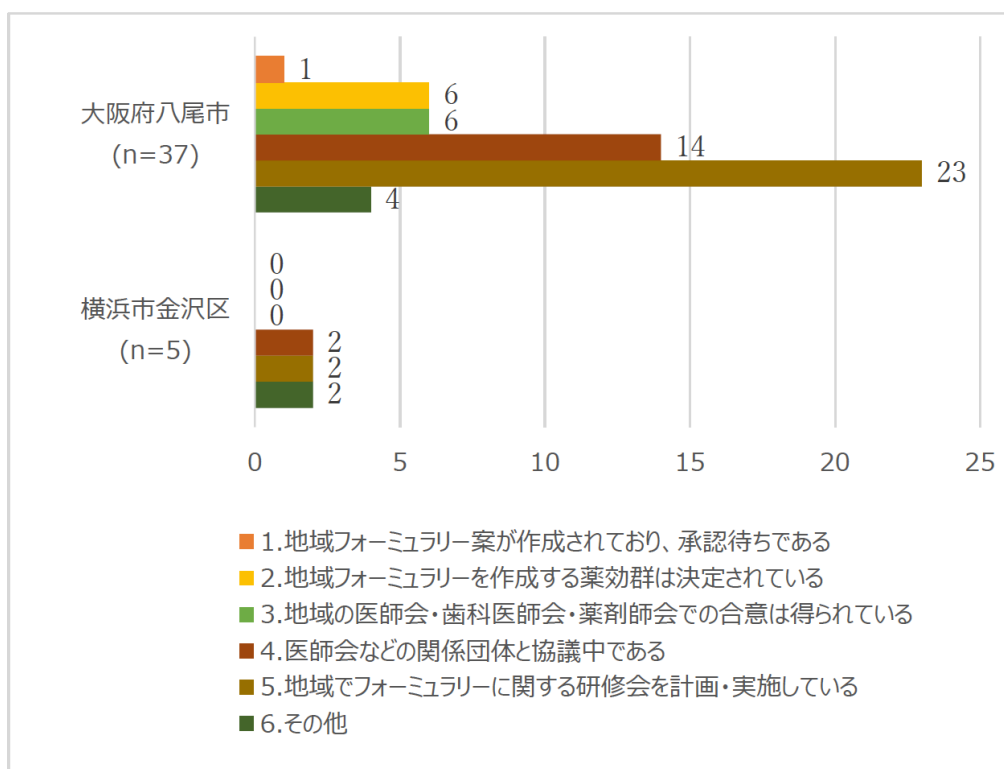
図表：地域フォーミュラリーの定期的な見直しの有無(単一回答)

⑧ 地域フォーミュラリーの運用準備状況

①で「2.運用の準備・検討がなされている」と回答した場合で、運用の準備状況は八尾市で「5.地域でフォーミュラリーに関する研修会を計画・実施している」が最も多く、回答率は62.1%(23件/全37件)であった。次いで、「4.

医師会などの関係団体と協議中である」との回答が多かった。

なお、酒田地区では地域フォーミュラリーがすでに始まっているため、データ掲載を割愛した。



図表：地域フォーミュラリー運用の運用準備状況(複数回答)

その他の主な回答は次の通りである。

八尾市

- ・現在薬剤師会で準備中であり、我々はまだよく知らない
- ・地域フォーミュラリー事業案策定承認。医師会・薬剤師会は合意
- ・地域の薬局での使用状況などを調査中

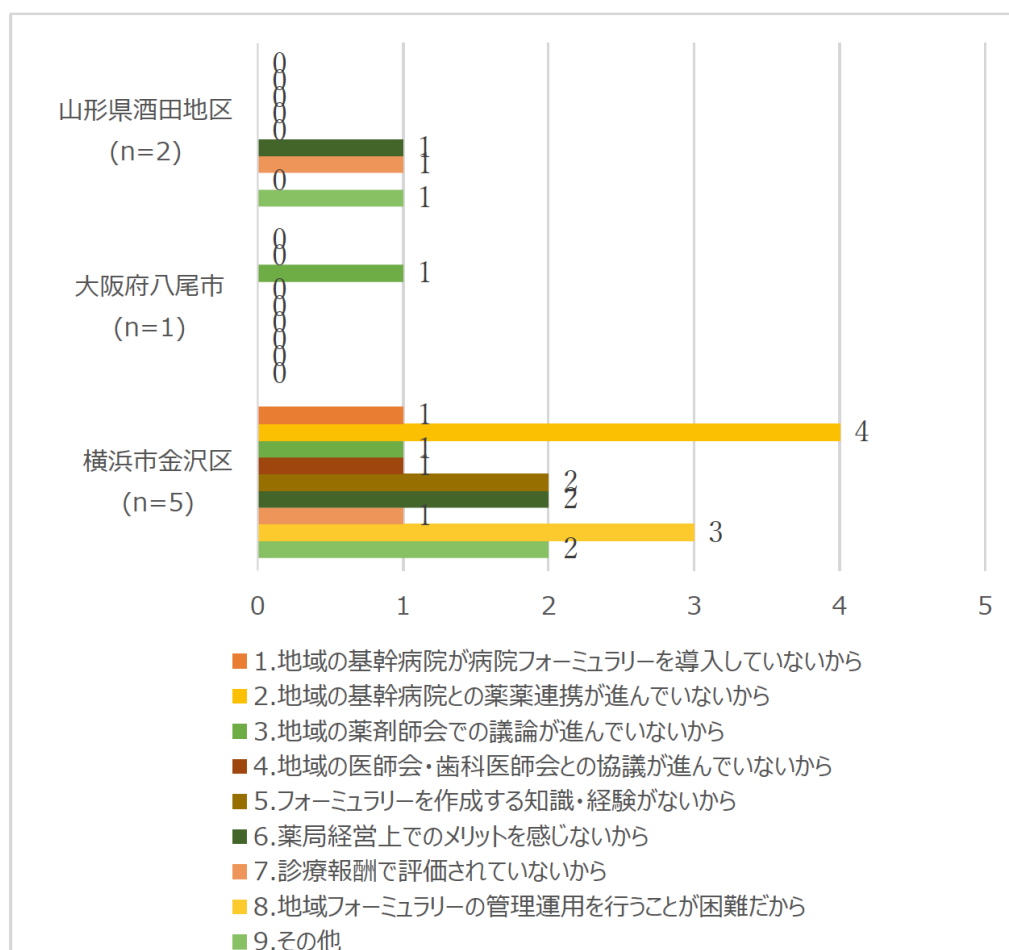
金沢区

- ・未定

⑨ 地域フォーミュラリーを運用する予定はないと回答した理由

①で「3.運用する予定はない」と回答した場合で、金沢区では「2.地域の基幹病院との薬薬連携が進んでいないから」と回答した割合が多

かった。次いで、「8.地域フォーミュラリーの管理運用を行うことが困難だから」であった。



図表：地域フォーミュラリーを運用する予定がないとした回答理由(複数回答)

その他の主な回答は次の通りである。

酒田地区

- ・会社で採用、推奨メーカーがあるため

金沢区

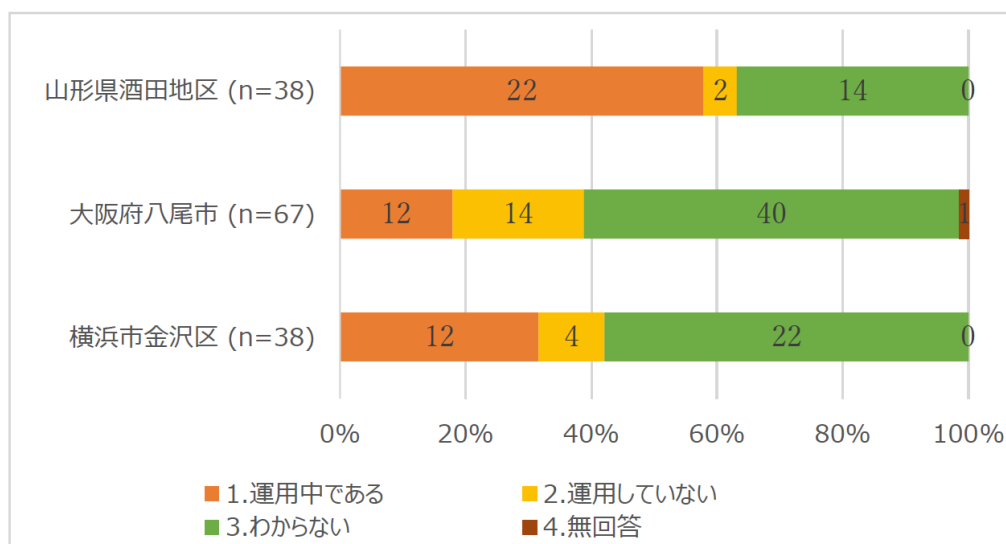
- ・薬薬連携会議の中で検討中

5. 地域の基幹病院での病院フォーミュラリーの運用状況に関する調査結果

① 地域の基幹病院での病院フォーミュラリー運用状況

地域フォーミュラリーを運用している酒田地区においては病院フォーミュラリーの認知度も高いが、八尾市では8割以上が病院フォー

ミュラリーの運用状況が知られていない。金沢区でも地域への浸透度は3割程度にとどまっている。

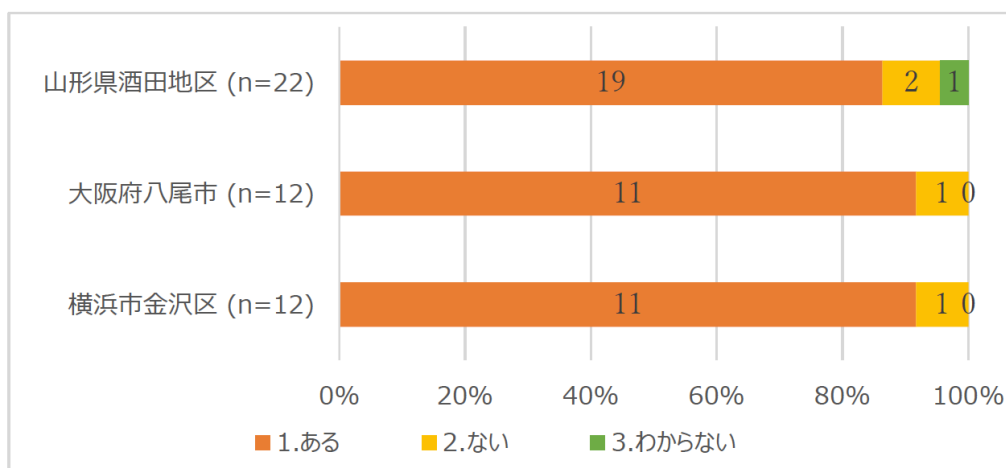


図表：地域の基幹病院の病院フォーミュラリーの運用認知度(単一回答)

② 病院フォーミュラリーの内容について、情報提供の有無

①で「1.運用中である」と回答した場合で、病院フォーミュラリーに関する情報提供はい

ずれの地区でも「1.ある」との回答が大半を占めた。

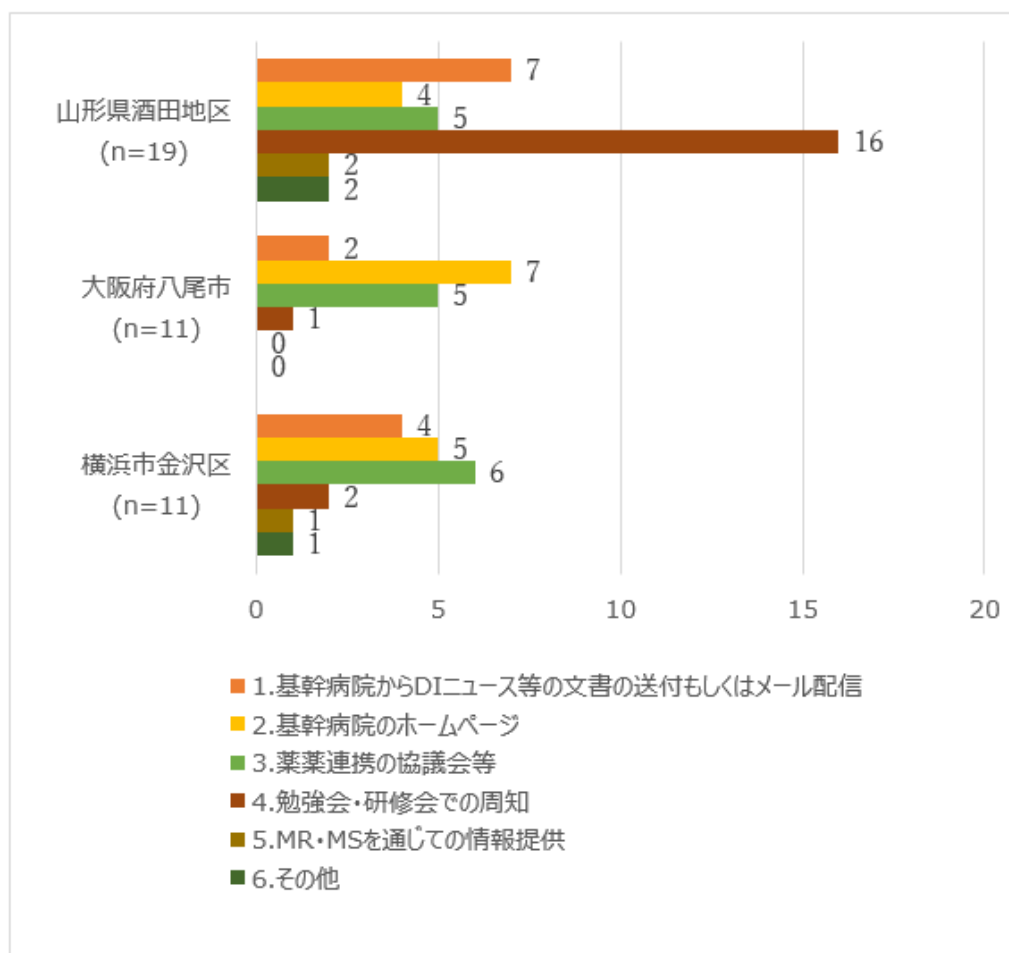


図表：地域基幹病院による病院フォーミュラリーについての情報提供の有無(単一回答)

③ 病院フォーミュラリーに関する主な情報源

②で「1.ある」と回答した場合で、病院フォーミュラリーに関する情報源は酒田地区では84.2%(16件/全19件)が「4.勉強会・研修会での周知」と回答した

八尾市や金沢区においては、「2.基幹病院のホームページ」や「3.薬業連携の協議会等」との回答も半数程度の施設から回答があった。

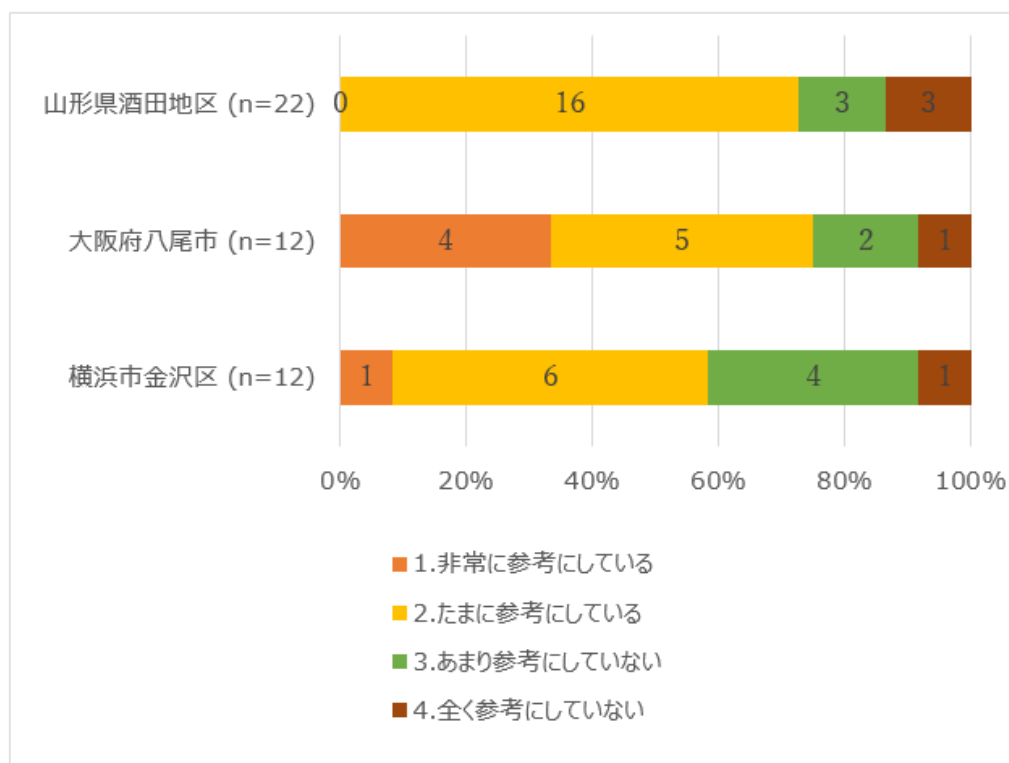


図表：病院フォーミュラリーに関する主な情報源について(複数回答)

④ 病院フォーミュラリーの参考度

①で「1.運用中である」と回答した場合、酒田地区および八尾市では「1.非常に参考になっている」および「2.たまに参考になっている」との回答がそれぞれ72.7%(16件/全22件)、75%(9件/全12件)と高い傾向が見られた。一方、

金沢区では58.3%(7件/全12件)にとどまっているが、その要因の一つはG-CSF製剤や注射用抗菌薬など地域医療ではあまり使用しない薬効群も含まれていることであると推察される。



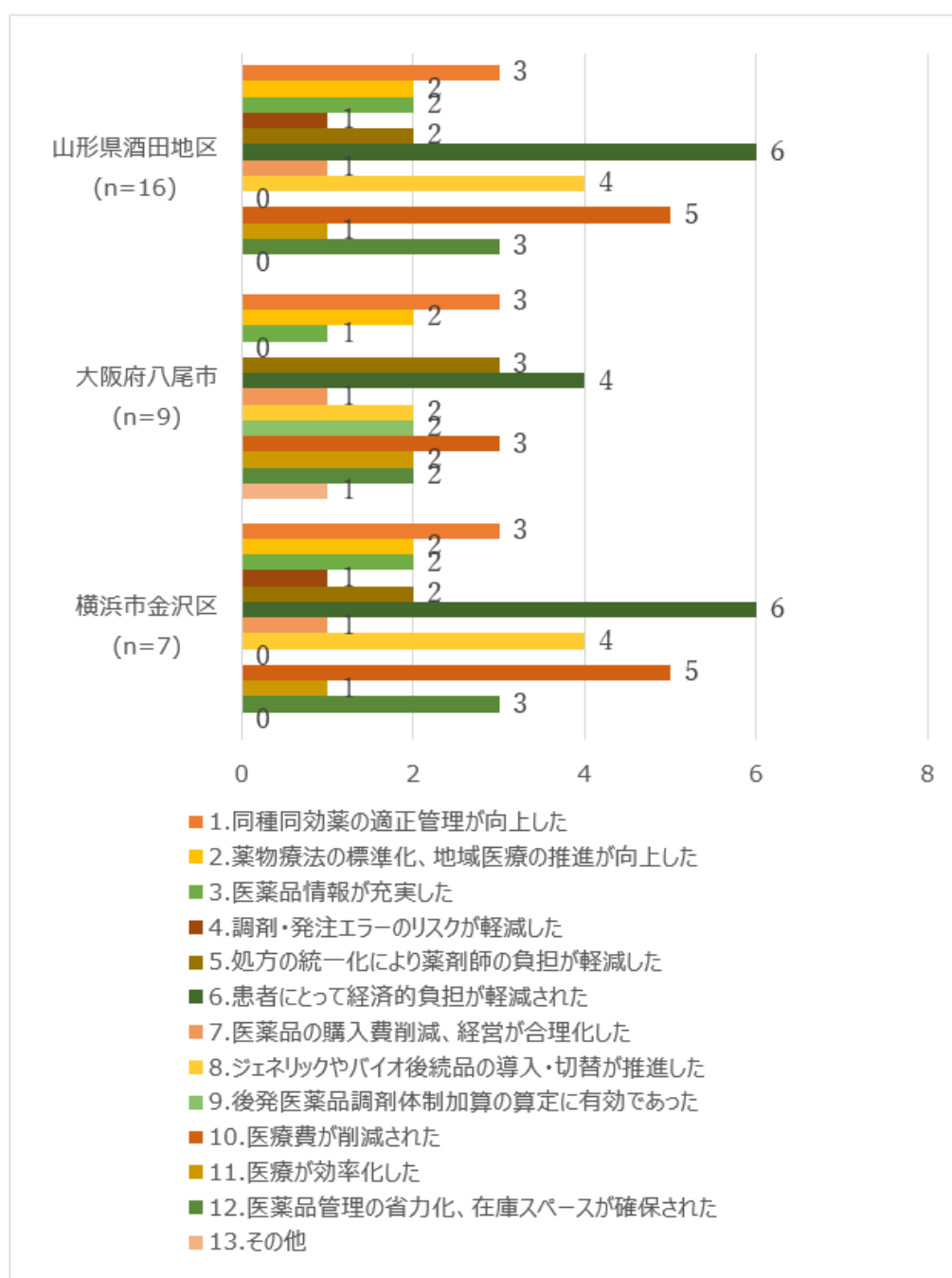
図表：病院フォーミュラリーの参考度(単一回答)

⑤ 病院フォーミュラリーを参考とした、医療の質向上や業務改善への影響

④で「1.非常に参考になっている」および「2.たまに参考になっている」と回答した場合で、いずれの地区も「6.患者にとって経済的な負担が軽減された」との回答が最も多かった。酒田地区や金沢区では、「10.医療費が削減された」、「8.ジェネリックやバイオ後続品の導入・切替えが推進した」が2番目、3番目であった。八尾市では「5.処方薬の統一化により薬剤師の負担

が軽減した」と回答した施設も全9件中で3件あった。

酒田地区において、全体的に回答数が少ないのは「1.非常に参考になっている」としている施設がないこと、病院フォーミュラリーよりも地域フォーミュラリーが浸透していることが要因として考えられる。

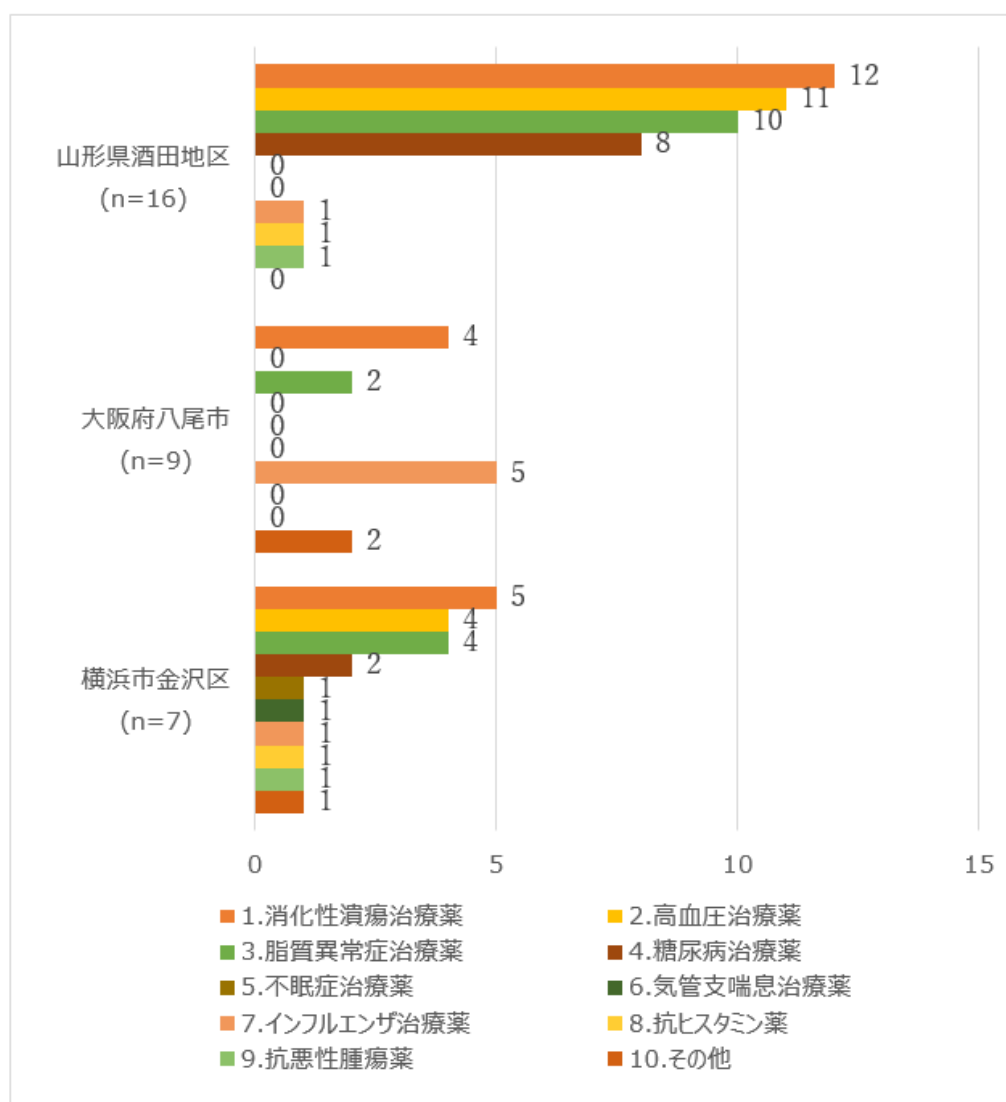


図表：病院フォーミュラリーによる医療の質向上・業務改善への影響(複数回答)

⑥ 病院フォーミュラリーを参考に行っている場合、具体的な薬効群

④で「1.非常に参考に行っている」および「2.たまに参考に行っている」と回答した場合で、参考に行っている薬効群は、酒田地区および金沢区では「1.消化性潰瘍治療薬」、「2.高血圧治療薬」、「3.脂質異常症治療薬」が上位を占めた。

八尾市では「5.インフルエンザ治療薬」が最も上位であったが、調査期間において他の薬効群では病院フォーミュラリーが未整備だったことによる影響が大きい。



図表：病院フォーミュラリーを参考している薬効群(複数回答)

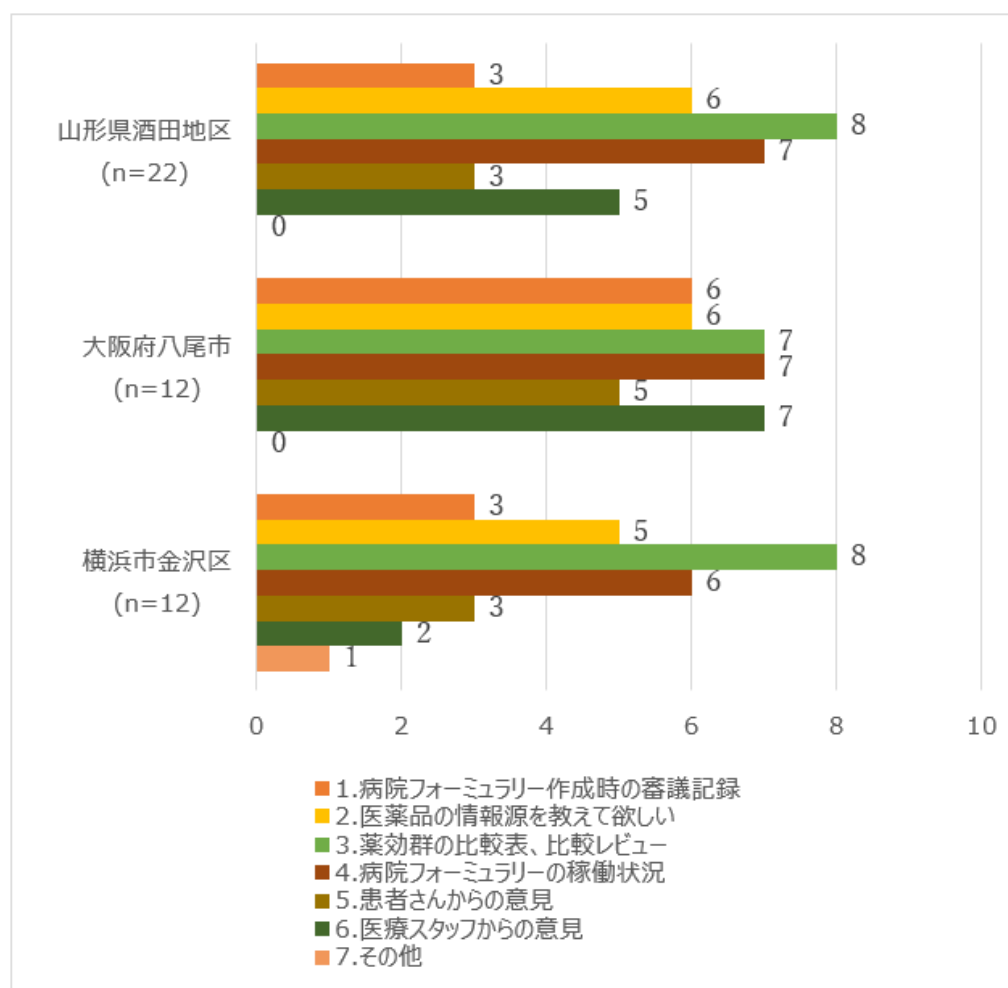
その他の回答

金沢区

・NSAids

⑦ 病院フォーミュラーを作成している病院から公開して欲しい情報

①で「1.運用中である」と回答した場合で、病院から公開して欲しい情報は、いずれの地区でも「3.薬効群の比較表、比較レビュー」であった。ついで、「4.病院フォーミュラーの稼働状況」と回答した施設が多かった。



図表：病院フォーミュラー作成している施設から公開して欲しい情報(複数回答)

その他の回答

金沢区

・原薬の生産国名

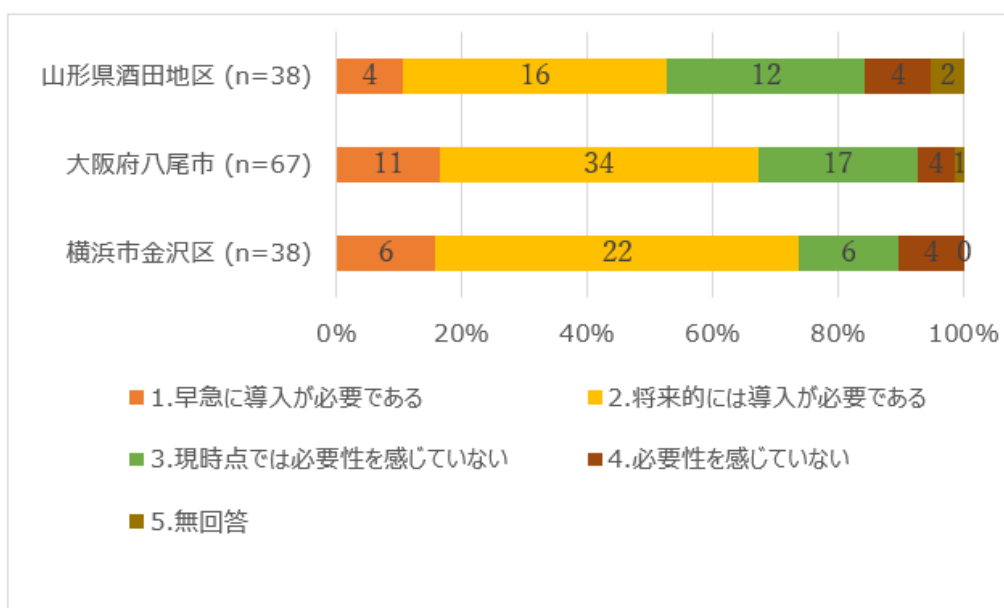
6. フォーミュラリーの必要性について

①フォーミュラリーの必要性

金沢区では「1.早急に導が必要である」または「2.将来的には導入が必要である」を選択した割合は、3 地区で最も高く 73.7%(28 件/全 38 件)になっている。次いで八尾市で 67.2%(45 件/全 67 件)となっている。

酒田地区においては、地域フォーミュラリー

がすでに導入されているため設問が適切でない影響が否定できないものの、「3.現時点では必要性を感じていない」を選択した割合が 31.5%(12 件/全 38 件)に上っており、運用にあたって何らかの課題が生じたり、運用のメリットを感じていないことが懸念される。

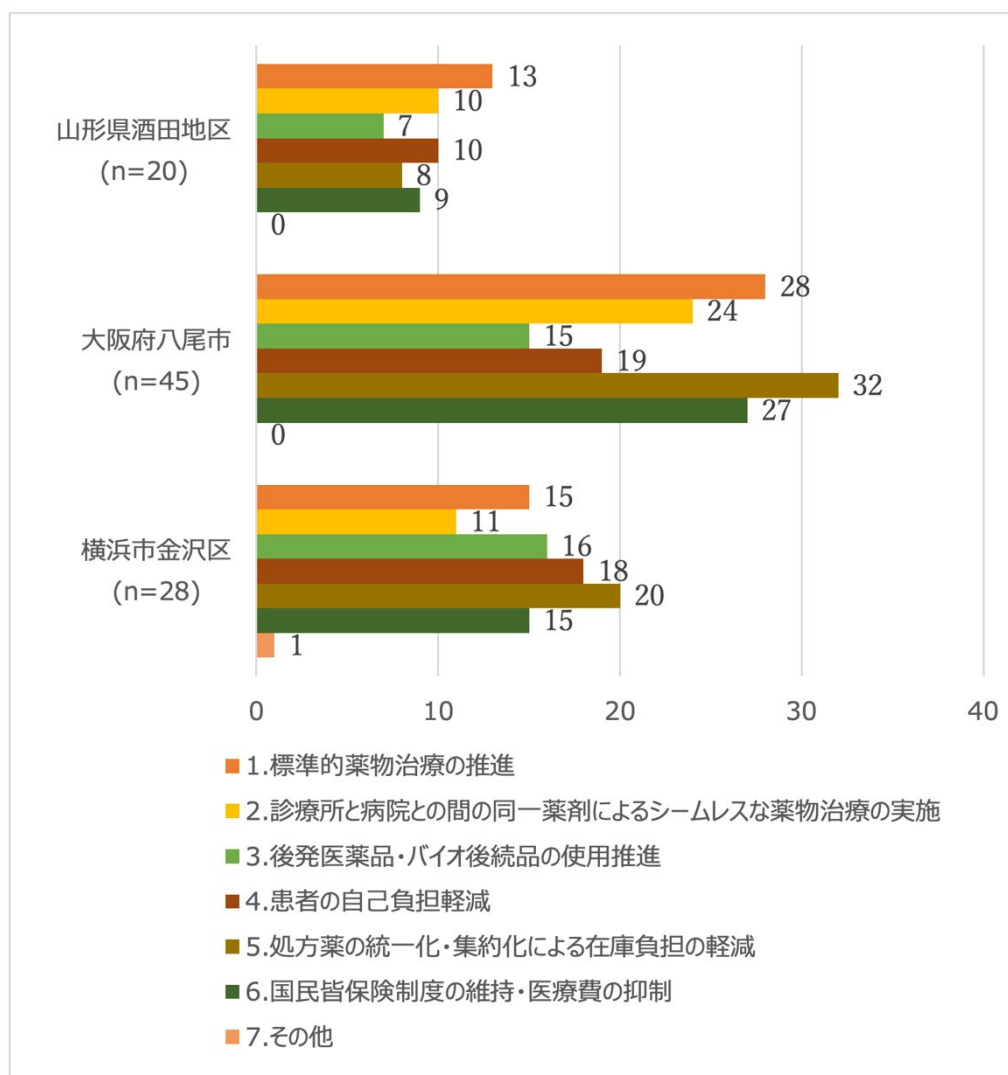


図表:フォーミュラリーの必要性(単一回答)

② フォーマリナーが必要であるとする理由

①で「1.早急に導入が必要である」または「2.将来的には導入が必要である」と回答した場合で、フォーマリナーが必要であると理由は、いずれの地区でも「1.標準的な薬物治療の推進」

が高い回答率であった。八尾市および金沢区においては、「5 処方薬の統一化・集約化による在庫負担の軽減」の回答がともに7割を超えている。



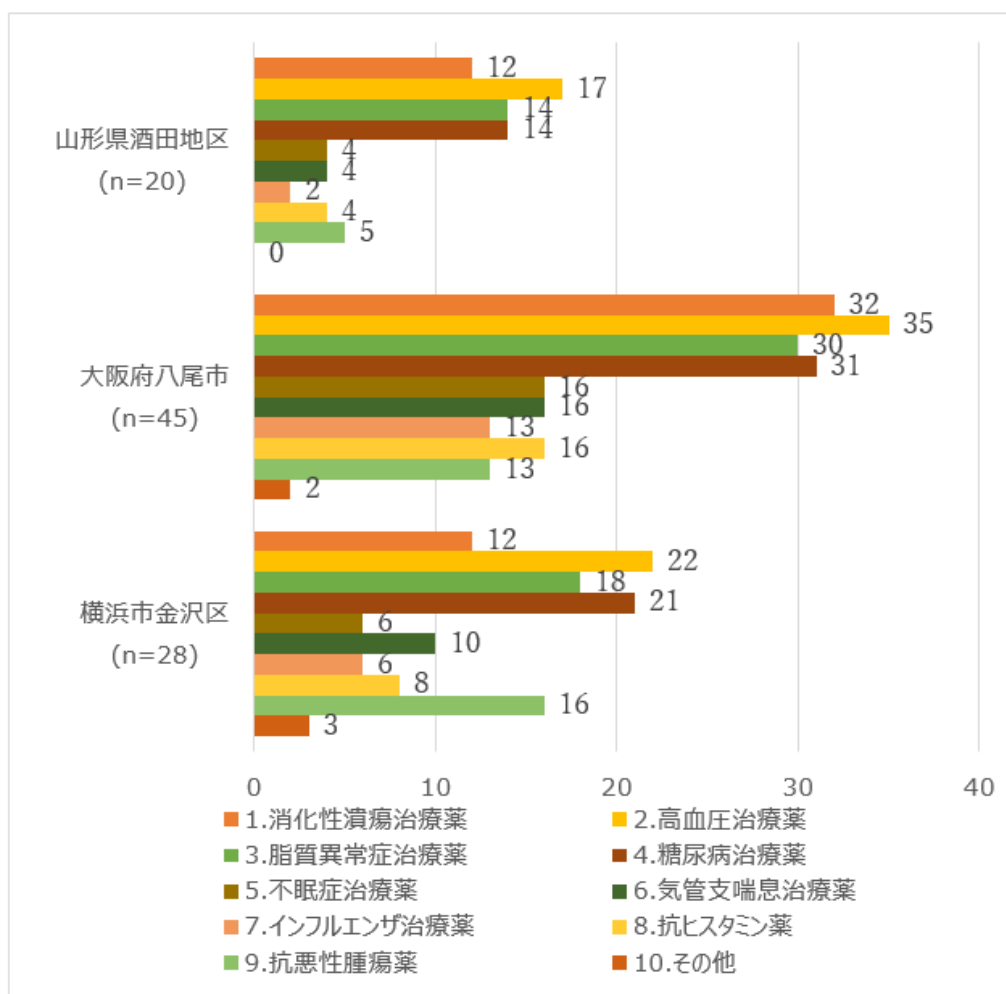
図表：フォーマリナーが必要である理由（複数回答）

③ フォーマリリーの作成が望まれる薬効群

①で「1.早急に導入が必要である」または「2.将来的には導入が必要である」と回答した場合、フォーマリリーの作成が望まれる薬効群は、いずれの地区でも「2.高血圧治療薬」、「3.脂質異常症治療薬」、「4.糖尿病治療薬」が上位3項目を占めた。「1.消化性潰瘍治療薬」も酒田地区や八尾市では高い回答率となってい

る。

金沢区においては、「9.抗悪性腫瘍薬」の回答率が57.1%(16件/全28件)と他の地区と比較して高い傾向がある。これは同地域に大学病院があることから抗悪性腫瘍薬の処方頻度が高いことが一因と考えられる。



図表:フォーマリリーの作成が望まれる薬効群(複数回答)

その他回答は次の通りである。

八尾市 静脈血栓塞栓症治療薬、ビスホスホネート

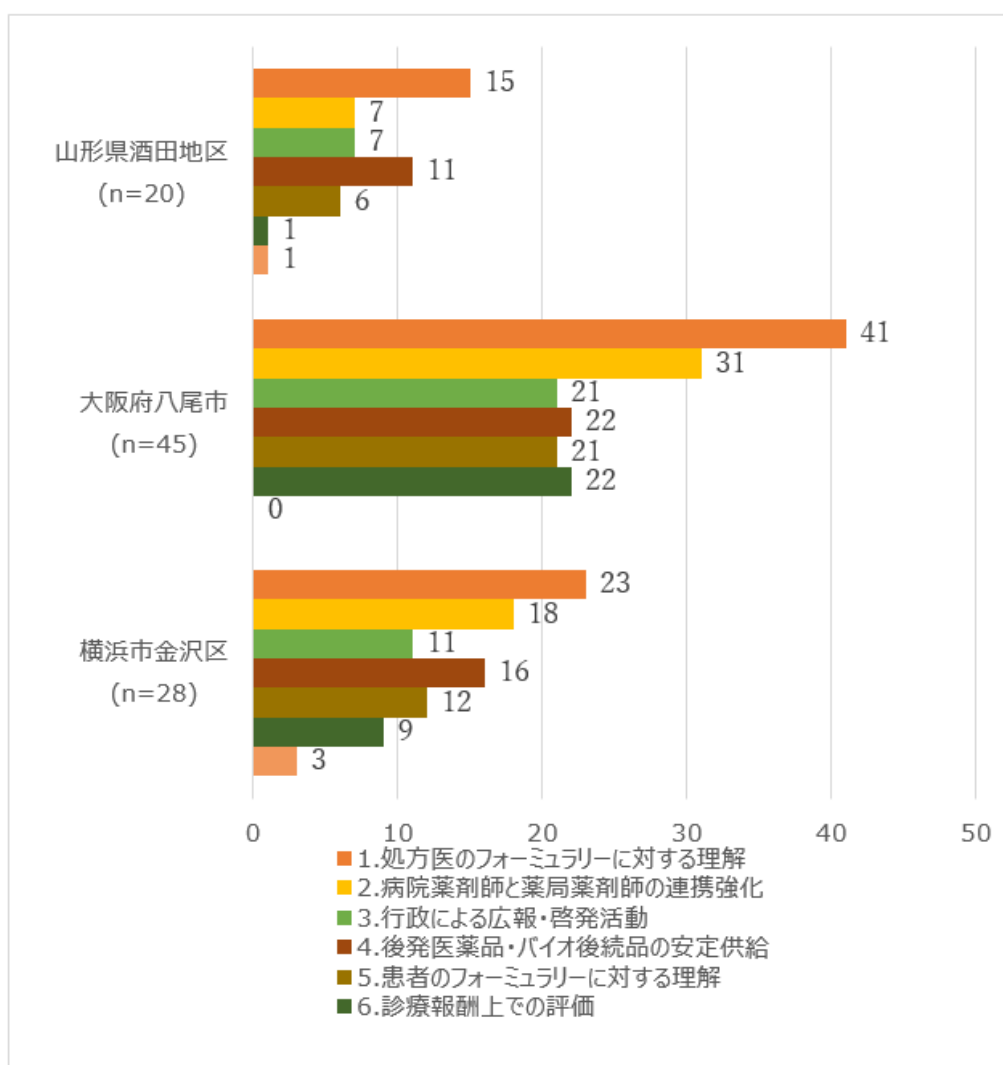
金沢区 骨粗鬆症治療薬、抗生物質

④ フォーミュラリーの普及促進のために必要なこと

①で「1.早急に導入が必要である」または「2.将来的には導入が必要である」と回答した場合で、フォーミュラリーの普及促進のために必要なことは、いずれの地区でも「1.処方医のフォーミュラリーに対する理解」が75%～91.1%と非常に高い回答率であった。八尾市と金沢区では「2.病院薬剤師と薬局薬剤師の連携強化」もそれぞれ 68.9%、64.3%と高くなっているが、

地域医療連携推進法人が組織されている酒田地区では 35%にとどまっている。

「6.診療報酬上での評価」については、八尾市で 48.9%(22 件/全 45 件)、金沢区で 32.1%(9 件/全 28 件)となっているが、酒田地区ではわずか 5%(1 件/全 20 件)となっており、地域による薬局薬剤師の考え方に大きな違いが見られた。

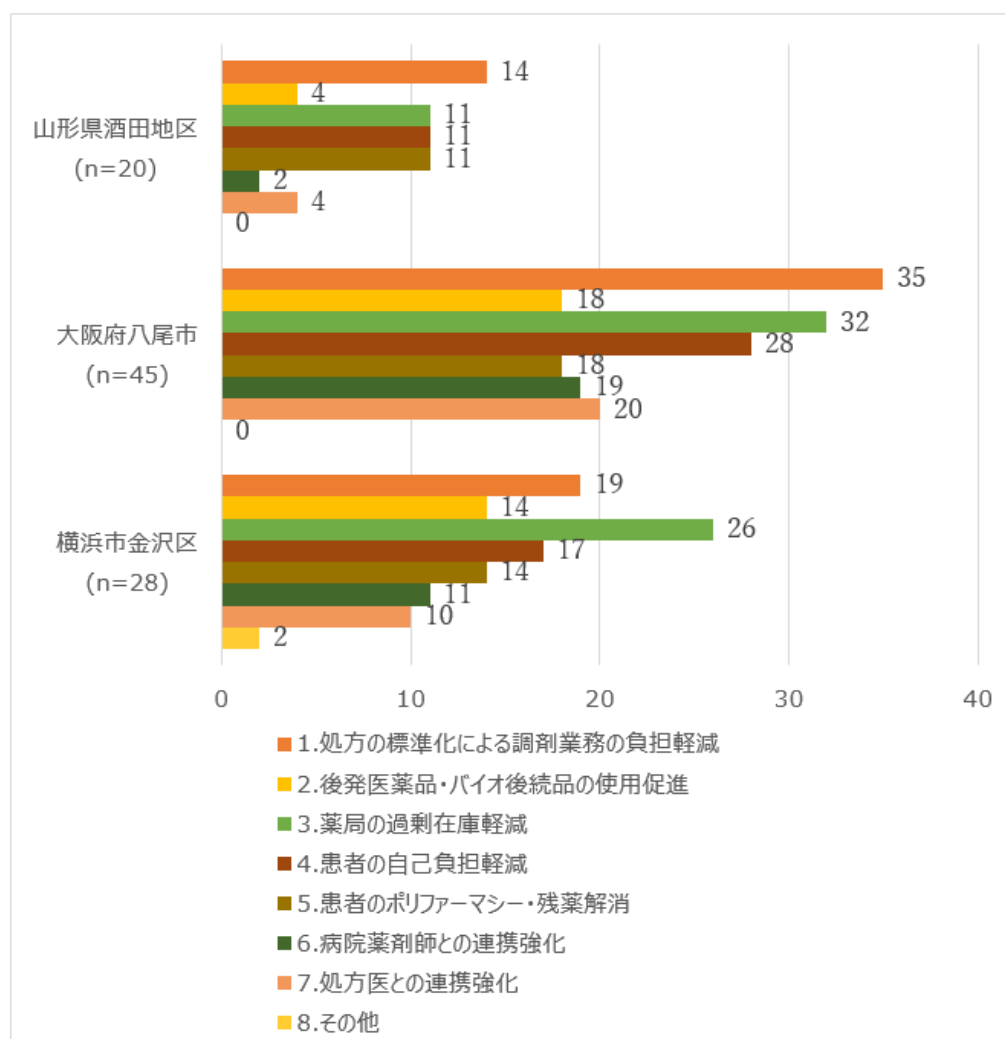


図表：フォーミュラリーの普及促進のために必要なこと(複数回答)

⑤ フォーマリリーが導入された場合の効果について期待すること

①で「1.早急に導入が必要である」または「2.将来的には導入が必要である」と回答した場合で、フォーマリリーが導入された場合の効果について期待することは、いずれの地区でも「1.処方標準化による調剤業務の負担軽減」と回答した割合が7割前後と高い傾向が見られた。

また、八尾市や金沢区では「3.薬局の過剰在庫軽減」の回答が多く、特に金沢区では92.9%(26件/全28件)と非常に高かった。また、「4.患者の自己負担軽減」については各地区とも半数以上から回答があり、期待する項目として考えられている。



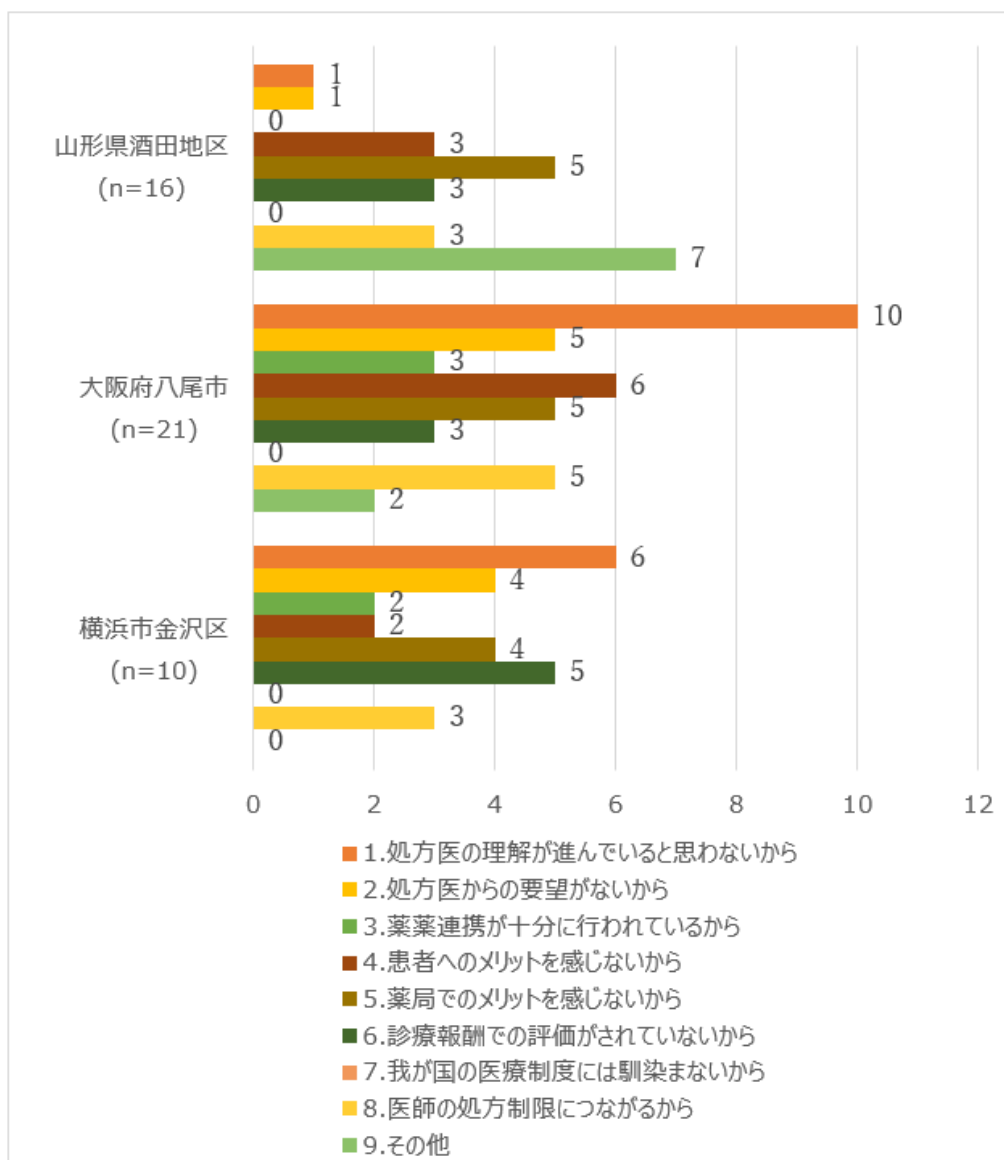
図表：フォーマリリーが導入された場合の効果で期待すること(複数回答)

⑥ フォーマリリーの必要性を感じていない理由

①で「3.現時点では必要性を感じていない」または「4.必要性を感じていない」と回答した場合で、その理由としては酒田地区では「9.その他」の回答が多かった。その理由は「会社で推奨品が決まっている」や「グループ内での指

定があるため」など、同一会社の運営方針が優先されるとの回答が7件中4件を占めていた。

八尾市や金沢区においては、「1.処方医の理解が進んでいると思わないから」が最も多く、約半数の施設から回答があった。



図表: フォーマリリーの必要性を感じていない理由(複数回答)

その他の主な回答は次の通りである。

酒田地区

- ・流通に支障が出ることもある。すぐに品薄になりやすい。迷惑を感じる人が多い
- ・十分にジェネリックへの変更が行われているから
- ・異動でこの地域に来たばかりで分からない。

八尾市

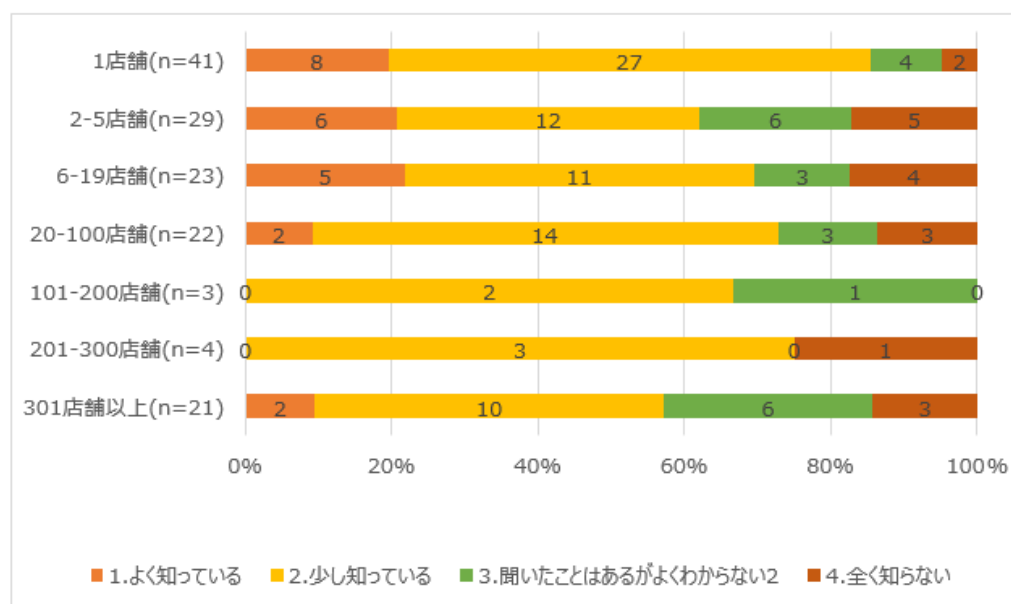
- ・メーカーの安定供給に不安がある。また、競争原理が働かなくなるため、納入時の価格交渉がしにくくなる。
- ・競合との違いがわからないから

7. 薬局規模別のデータ集計

① フォーミュラリーの定義、内容についての認知度(項番3. ①と同じ質問)

小規模店舗の方が、フォーミュラリーの認知度が高い傾向があり、1店舗薬局では「1.よく知っている」と「2.少し知っている」を合わせた認知度は85.4%(35件/全41件)と高値となっている。

301店舗以上の大手調剤薬局であっても、フォーミュラリーの認知度は他の群と比べて高くないことが分かった。

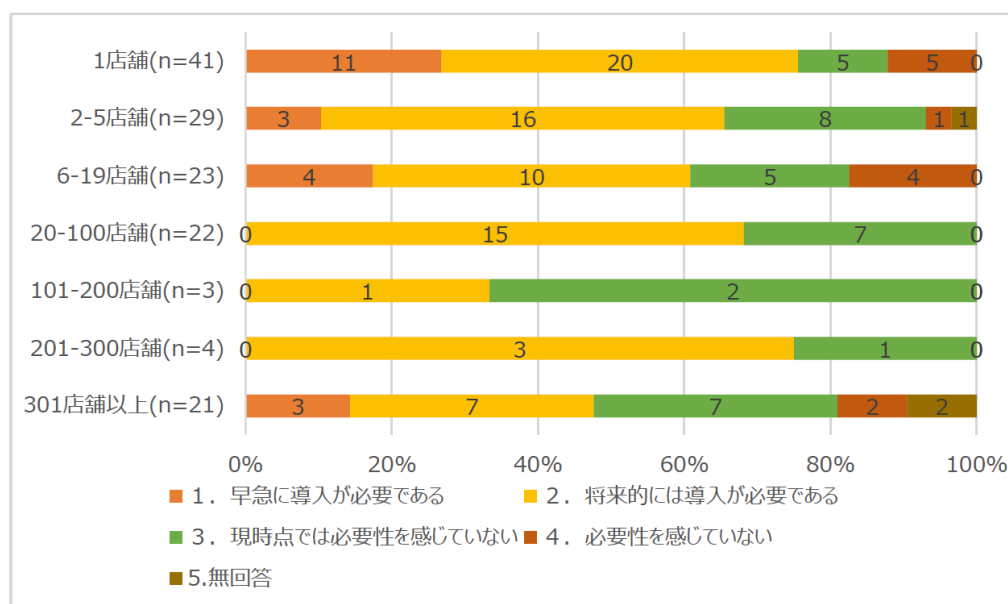


図表: フォーミュラリーの認知度(薬局規模別、単一回答)

② フォーマリリーの必要性(項番 6. ①と同じ質問)

店舗数が少ない薬局ほど、フォーマリリーの必要性を感じている傾向があり、1店舗薬局では、「1.早急に導入が必要である」または「2.将来的には導入が必要である」と回答した割合は75.6%(31件/全41件)であった。

一方、101以上の店舗数を有する大型薬局は計28店舗であるが、そのうち必要性があると回答したのは半数の14店舗にとどまっており、フォーマリリーに対する意識の相違が見られた。

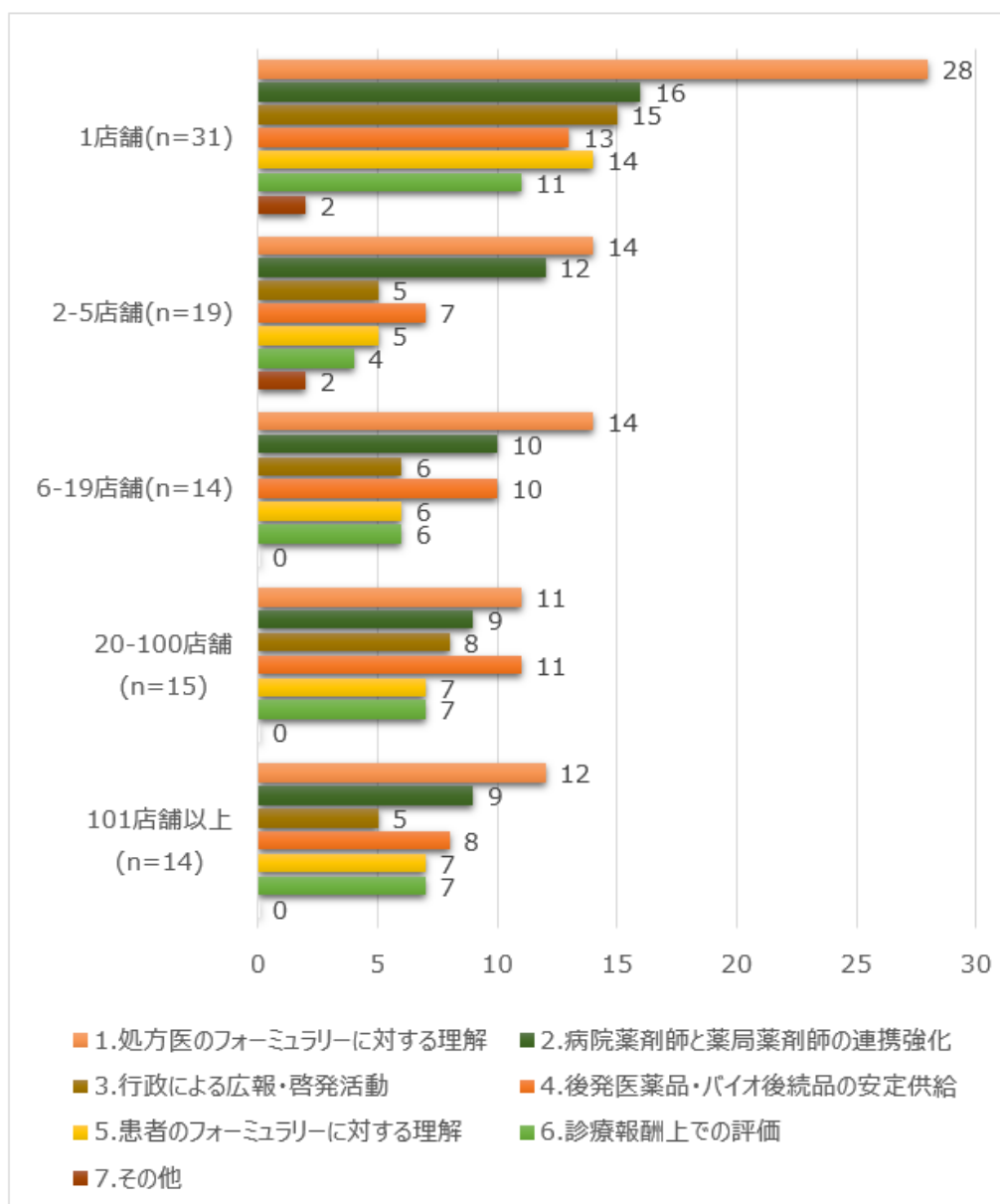


図表:フォーマリリーの必要性(薬局規模別、単一回答)

③ フォーマリリーの普及促進のために必要なこと(項番 6. ④と同じ質問)

店舗数の規模によらず、「1.処方医のフォーマリリーの理解」と回答する割合が高かった。また、「4.後発医薬品・バイオ後続品の安定供給」を挙げたのは1店舗と2-5店舗ではそれぞれ

41.9%、36.8%にあるのに対し、6-19店舗では71.4%、20-100店舗では73.3%、101店舗以上では57%と規模が大きい施設ほど割合が高い傾向が見られた。



図表: フォーマリリーの認知度(薬局規模別、単一回答)

D. 考察

1. 病院フォーミュラリーの地域医療への影響度

金沢区の基幹病院である横浜市立大学附属病院は、病院フォーミュラリーを先進的に取り組んでいる施設の一つであるが、C.3.①や5.①の結果から病院フォーミュラリーが進んでいても地域医療への影響は限定的であると考えられる。その点において、我が国における病院フォーミュラリーと地域フォーミュラリーは医薬品使用の標準化を進める観点で共通する部分はあるものの、運用・運営方針は大きく異なると言える。

地域フォーミュラリーの推進には、C.6.④にもあるように病院薬剤師と薬局薬剤師の連携強化が必要であるが、実際には思うように進んでいない。酒田地区のように地域医療連携推進法人などの基盤がない地区においては、地域医師会や歯科医師会を含めた会議体(地域フォーミュラリー推進会議)の設置することも有効であると考えられる。

また、地域薬剤会だけではフォーミュラリー作成のための情報収集や資料作成が不十分な場合、C.5.⑦では基幹病院の医薬品情報(DI)薬剤師は薬効群の比較表や比較レビュー、病院フォーミュラリーがすでに稼働している場合はその稼働状況などを報告することも期待されている。実際に、適切な情報提供がなされれば、C.5.④の結果の通り地域薬剤師会にとって参考になっていると考えられる。

2. フォーミュラリーが必要とされる薬効群

C.6.③のフォーミュラリーの作成が望まれる薬効群で回答率が高い4薬効群(消化性潰瘍治療薬、高血圧治療薬、脂質異常症治療薬、糖尿病療養治療薬)は、C.4.⑥の地域フォーミュラリーを運用している薬効群およびC.5.⑥の病院

フォーミュラリーを参考としている薬効群でいずれも上位をしめている薬効群と同じであることが分かった。病院フォーミュラリーでは病院内での購入額の抑制が大きい注射薬のフォーミュラリーの報告も多いが、地域フォーミュラリーにおいては生活習慣病用薬のニーズが高いものと考えられる。

まずはこれらの薬効群を基本として、地域特性や患者特性を考慮しつつ基幹病院で実績のあるフォーミュラリーを地域にも展開させていくことが肝要である。八尾市や金沢区では、C.3.④で患者から薬の値段について相談があった薬効群として抗悪性腫瘍薬との回答も3割程度あったが、C.6.③でも作成を望む声があり、特に金沢区では半数を超えている。これまで抗悪性腫瘍薬のフォーミュラリーは病院フォーミュラリーを含めて報告がないが、支持療法薬である制吐剤ではジェネリック医薬品も発売されており、がん診療の拠点病院がある地域においては導入を検討する必要がある。

3. 地域フォーミュラリーの普及のための方策

フォーミュラリーの普及促進のための必要なことについてC.6.④の回答状況を見ると、「1. 処方医のフォーミュラリーに対する理解」と回答した割合は84.9%(79件/全93件)と非常に高い。一方、C.6.⑥ではフォーミュラリーの必要性を感じていない理由で最も多かったのは「1. 処方医の理解が進んでいるとは思わないから」であった。薬局薬剤師の回答が主体的ではなく、処方権を有する医師の理解度に言及しており、地域医療における医師と薬剤師のパワーバランスの存在が懸念される。

フォーミュラリー認知のための手段については、C.3.②の八尾市および金沢区の結果より研修会の開催が最も効果的であると考えられ、病院薬剤師と地域薬局薬剤師が共通認識を持つことが重要である。必要に応じて病院薬剤師

を地域薬剤師会の役員として迎えるなど、団体の枠を超えた連携が求められる。その上で、地域薬剤師会と地域医師会・歯科医師会が連携した形で研修会やワークショップを実施するのが望ましいだろう。

4. フォーマュラリーへの期待と実際

C.6.② フォーマュラリーが必要であるとする理由として、八尾市や金沢区では「5.処方薬の統一化・集約化による在庫負担の軽減」が7割を超えているが、酒田地区では4割にとどまっている。また、C.6.⑤で「3.薬局の過剰在庫軽減」を選択した割合も半数程度であり、期待値ほどの実感が得られていない店舗も多いことが予想される。調査時点での酒田地区の地域フォーマュラリー数は8薬効群であるが、各成分の推奨銘柄は最大4品目となっている。在庫減を実感するためにはフォーマュラリーの薬効群を増やすほか、地域単位で推奨薬の銘柄を絞り込むことも必要であろう。

C.6.⑤において「1.処方の標準化による調剤業務の負担軽減」と回答したのは、各地区とも多かった。八尾市や金沢区が期待する内容と実際に運用されている酒田地区で意見が一致していることから、導入効果は十分に期待できる。

5. 薬局規模別に見る地域フォーマュラリー

C.7.①の結果から、地域フォーマュラリーの認知度が高いのは1店舗経営の個人薬局であり、大規模店舗ほど認知度が低い傾向がみられる。また、C.7.②の結果からは、大規模店舗ではフォーマュラリーの必要性を感じているのは半数にも満たない。一方、C.7.③では後発医薬品・バイオ後続品の安定供給をあげている割合が高く、将来を見据えた標準的な薬物療法の推進よりも現実的な経営面での安定性を重視した回答が多いと言える。

一般的に、大手チェーン薬局では経験年数が

浅い薬剤師でも店舗責任者となるケースがあること、責任者としての裁量が小さく本部からの意向が反映されやすいことから、このような結果につながったと考えられる。また、一部の大手チェーン薬局では本部にフォーマュラリーの専門部署を設けているところもあるが、まだ十分に浸透していない可能性もある。

6. 薬局経営とフォーマュラリー

フォーマュラリーの普及促進のために必要なこととして薬局規模別のC.7.③では6店舗以上の薬局ではほぼ半数程度(20件/全43件)が「6.診療報酬上での評価」を必要であるとしている。一方、地域別のC.6.④では、酒田地区ではわずか1件で、6店舗以上の薬局からの回答はなかった。このことから、診療報酬での評価を必要と考えているのは薬局の規模ではなく、地域特性や患者特性が影響しているものと推測される。

また、フォーマュラリーでの在庫管理上のメリットはそれほど大きくないものの、処方の標準化による調剤業務の負担軽減という直接的な効果に加え、かかりつけの患者が基幹病院への入退院時に薬の変更が少なくなることで間接的な負担減にもつながることが考えられる。患者にとっても、地域医療と病院で同じ薬物治療が行われるメリットは大きいと言える。

E. 結論

本調査は国内3カ所でのアンケート調査であり、得られた結果は国内での標準的な結論として外挿することはできないが、地域フォーマュラリーの黎明期である我が国における状況として貴重なデータである。これを活用することで、今後の地域フォーマュラリー進展の一助となれば幸いである。

調査にご協力いただいた酒田地区薬剤師会、

八尾市薬剤師会および金沢区薬剤師の皆様を始め、報告書を完成するにあたり、御多忙中にも関わらず、常に熱心に御指導くださった研究代表者の今井博久教授に心から御礼申し上げます。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし